スズキ車をお買いあげいただきありがとうございます。

車は取扱いを誤ると事故や故障の原因となります。正しい取扱いをご理解いただくため運転する前に、必ず取扱説明書をお読みください。そして安全で快適なバイクライフをお楽しみください。
またメンテナンスノートもぜひお読みください。

- この取扱説明書には、お車の正しい取扱いかた、安全な運転のしかた、簡単な点検、整備の方法などについて説明してあります。
- **「必読！安全運転のために」**および次のシンボルマークで示したところは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠警 告	取扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害を生じる可能性がある危害の程度を示しています。
⚠注 意	取扱いを誤った場合、傷害を負う可能性がある危害の程度を示しています。
注 記	取扱いを誤った場合、物的損害の発生する危害の程度を示しています。
アドバイス	お車のために守っていただきたいこと、知っておくと便利なことを示しています。

お車受け取りの際は、お買いあげいただいたスズキ販売店より取扱説明書、メンテナンスノートを受け取り、下記の説明を受けてください。

◇ お車の正しい取扱い方法
◇ 日常点検、定期点検
◇ 保証内容と保証期間
◇ 保証書の発行 《保証書登録票の記入・捺印》

- お車を譲られるときは、次に所有される方のためにこの取扱説明書とメンテナンスノートをお渡しください。
- 仕様の変更などにより、この取扱説明書の内容とお車が一致しない場合があります。ご了承ください。

☆ この車は、平成32年排出ガス規制適合車です。

もくじ

必読！安全運転のために

安全のために心がけること.....4
運転の前に.....10
ブレーキについて.....13
使用燃料.....15
アクセサリの取り付けや積載について.....15
改造について.....18

取扱いの方法

装備一覧.....20
メータの見かた.....29
運転アシストシステムの設定.....41
メインスイッチ.....49
ハンドルスイッチ.....52
エンジンのかけかた.....55
スタンド.....59
ガソリンの給油.....60
シフトペダル.....62
ブレーキレバー.....64
リヤブレーキペダル.....64
シート.....65
ヘルメットロック.....67
書類入れ.....68
サスペンション.....68

お車の点検および簡単な整備

点検と整備.....76
日常点検と定期点検.....77
サービス工具.....80
注油.....80
バッテリ.....82
スパークプラグ.....85
エアクリーナ.....85
エンジンオイル.....89
冷却水.....94
スロットルケーブル.....97
ドライブチェーン.....99
クラッチ.....103
ブレーキ.....104
タイヤ.....109
ホイール.....114
サイドスタンド/インタロックシステム...114
ヒューズ.....115
灯火装置.....117
故障診断カプラ.....117

トラブルシューティング

トラブルシューティングとは.....118
エンジンがかからないときは.....118
オーバーヒートしているときは.....118
メータに次の表示が出たときは.....120
お車が次の状態のときは..120

お車の手入れ

保管のしかた.....122
長期保管後は.....123
サビを防ぐために 123
洗車.....125
洗車後は 128

インフォメーション

触媒装置.....130
車両の情報記録装置 130
識別ナンバー打刻位置.....131
環境を保護するために.....132

サービスデータ

主要諸元.....134
サービスデータ 135

必読！安全運転のために

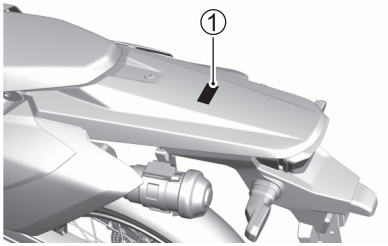
安全のために心がけること

■ 事故や故障を避けるために

この章にあげた、日常走行する上での基本的な注意事項を守り、安全運転を心がけてください。

お車のご購入当初は、誰でも細心の注意をはらって運転しますが、なれるに従い注意を怠ってしまいます。事故防止のため、いつも細心の注意をはらって運転しましょう。

◇重要な事項を書いたラベル ① が車に貼られています。運転するときは、これらの注意をいつもお守りください。また、決してはがさないでください。



- **転倒などの際のけがを最小とするため、ヘルメットや手袋などの保護具を正しく着用してください。**
- **取扱説明書をよくお読みください。**

◇二輪車の事故は他の運転者から気づかれないことが要因で起きることがあります。次のことに注意して運転してください。
- **明るい昼間でもヘッドランプやテールランプを点灯する**
- **他の運転者の死角に入らない**

◇運転中は両手でハンドルを握り、足をフットレストに置いてください。同乗者には両手で身体をしっかり固定させ、足を後席用フットレストに置いてください。

◇急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因になりますので絶対にしないでください。

◇荷物の積載は、操縦安定性に影響を与えます。積みすぎに注意して安全な速度で運転してください。荷物をのせるときは「積載について」（☞P.17）を参照してください。

＜点検整備をしましょう＞
事故や故障を未然に防ぐため、日常点検と定期点検を必ず実施してください。
もし、いつもと違う音やにおいがしたり、液漏れした場合などは、スズキ販売店で点検を受けてください。日常点検と定期点検については「日常点検と定期点検」（☞P.77）を参照してください。

⚠警 告

スピードの出しすぎによって，操縦のコントロールを失う可能性が高くなります。その結果，事故につながるおそれがあります。

走行時の路面，視界，操作状況やあなたの技量，経験に適した速度で走行してください。

⚠警 告

運転中にハンドルから手を離したり，フットレストから足を離したりすると操縦性に影響がでます。その結果，バランスを失ったり転倒を引き起こしたりするおそれがあります。フットレストから足を離すとリヤホイールに接触するおそれがあります。その結果，傷害や事故を引き起こすおそれがあります。

運転中は必ず，両手でハンドルを握り，両足をフットレストに置いてください。

■ 安全な運転は正しい服装から

＜概要＞
運転者と同乗者は必ずヘルメットを着用し、保護性が高く運転のしやすい服装や保護具を着用してください。次の内容を参考にご用意ください。

＜ヘルメット＞
- ヘルメットを必ず着用してください。PSC、SGまたはJISマークのある二輪車用ヘルメットを必ずかぶり、あごひもをしっかり締めましょう。ヘルメットは頭にしっくり合って圧迫感のないものをお選びください。
- ヘルメットシールドまたはゴーグルを着用してください。風から視界を確保できるだけでなく、空気中の虫、ホコリ、前を走っている車が巻き上げる小石などからも目を守ります。

安全のために心がけること

⚠警 告

ヘルメットは、正しくかぶらないと事故の際に死亡または重大な傷害を負う可能性が高くなります。

ヘルメットを正しくかぶってください。運転者だけでなく、同乗者も必ずヘルメット、保護具および保護性の高い服を着用してください。

＜適切な服装＞

- 保護具や保護性の高い服装を着用してください。服装は明るく目立ち、体の露出の少ない長袖、長ズボンを着用しましょう。万一のとき身体への衝撃を軽減します。また、運転を阻害するような服装はやめましょう。そで口の広い服や、すそ広のズボンなどのゆったりした服装は運転操作の邪魔になります。
- グローブを着用してください。グローブは摩擦に強い皮製が適しています。
- 運転操作のしやすいくるぶしまで覆う靴をはいてください。
- 必要に応じてプロテクタを備えたジャケットやパンツを着用してください。

⚠警 告

後席の人が背丈の長いジャケットやコートを着用するとテールランプやターンシグナルランプが覆い隠されて、後続車に認識されず危険です。

後席に乗る人は、背丈の長いジャケットやコートをできるだけ着用しないでください。着用する場合は、すそをお尻の下に敷くなどして、テールランプやターンシグナルランプが隠れないようにしてください。

＜同乗者の装備＞

二人乗りするときは、同乗者も運転者と同じようにヘルメットと保護具を着用してください。同乗者の服がホイールやチェーンなどに巻き込まれるおそれがありますので、スカートやゆったりしたズボンなどは避け、靴紐にも注意してください。

■ 環境に合わせた運転をしましょう

＜風が強い日は＞

横風が強いとき、トンネルの出口や橋の上、あるいは大型トラックに追い越されたり追い越したりするときは、横風を受けて車が流されることがあります。
スピードを抑え、ハンドルをしっかり握って運転しましょう。

⚠警告

大型の車両に追い越されたりトンネルの出口や丘陵の多い土地では，突然横風を受けたり，運転のコントロールを失なうことがあります。

速度を落とし，横風に警戒してください。

＜雨の日や雪の日は＞

- 濡れた道、荒れた道、やわらかい道はすべりやすいので、急加速、急減速、急ブレーキは避けてください。また、これらの道は制動距離がのびるため、ふだんよりスピードを落として、早めにブレーキをかけてください。雨が降ると道路にしみこんでいた油分が道路に浮き上がりますのですべりやすくなっています。路面標示、マンホール、グレーチング(溝のふた)、橋のつなぎ目などの金属部、線路などもすべりやすくなっていますので、特に注意してください。
- コーナリング時のブレーキングは挙動が不安定になります。コーナーに差し掛かる前に十分にスピードを落としましょう。タイヤと路面の間の摩擦力には限界がありますので、限界を超えた場合にはタイヤがすべり、コントロールを失って転倒するおそれがあります。

⚠警告

すべりやすい路面で強いブレーキをかけるとホイールが横すべりし転倒するおそれがあります。

すべりやすい路面では，ブレーキは慎重にかけてください。

アドバイス

- **濡れた路面ではスリップしやすいので急激なブレーキは避け、スピードを落として余裕をもったブレーキ操作をしましょう。**
- **洗車後や水たまり走行後は、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。効きが悪い場合は、前後の車に十分注意して低速で走行しながら、効きが回復するまでブレーキを軽く作動させてください。**

安全のために心がけること

＜冠水した道は＞
冠水した場所は走行しないでください。
万一、冠水した場所を走行したときは、ブレーキの効きを確かめながら安全な場所に停車し、スズキ販売店にご連絡ください。
また、次の項目などについて点検を受けてください。

- ブレーキの効き具合
- コネクタ、配線の浸水
- ベアリングなどの潤滑不良
- エンジンオイルなどのオイル量および質の変化（オイルが白濁している場合は、水が混入していますので、オイル交換が必要です。）

注 記

冠水した場所や深い水たまりを走行しないでください。

エンスト、電装部品の故障、エンジンの破損などの原因となります。

■ お車になれるまでは

運転技術と機械的な知識を身につけることが、安全に運転するための基本です。安全に運転するためにも、お車をお買いあげいただいた直後は、交通量の少ない場所でお車の運転と操作になれることをおすすめします。

■ 乗車定員

乗車定員は、2名です。
定員を超えての走行は危険ですので、絶対におやめください。

＜二人乗りの手引き＞
二人乗り(タンデム)は、二輪車ならではの感覚を楽しみ、共有できる乗り方ですが、同乗者の体重はハンドリングとブレーキングに影響するため、一人乗りのときとは乗り方を変えなければなりません。
二人乗りする場合、必要に応じて次の項目をご確認ください。

- 空気圧の点検：（☞P.111）参照
- サスペンション：（☞P.68）参照
- 積載について：（☞P.17）参照

走行前に同乗者の足がフットレストに届くかを確認してください。また、安全に運転するためには、同乗者も二輪車の動きや同乗者としての乗り方を知っておく必要があります。同乗者に次の内容を事前に理解してもらってください。

- 同乗者は運転者の腰回りをつかむか、タンデムベルトやグラブバーがある場合にはそれらをつかんで体を安定させます。
- 同乗者は、運転者がバランスを崩す原因になるため、突然動かないようにしてください。また、カーブを曲がるときには、運転者に合わせて体を傾けるようにしましょう。
- 同乗者は、足がマフラなどに触れてやけどをしないために、信号などで停車するときにも足はフットレストに乗せたままにしてください。乗り降りのときにも触れないように注意しましょう。

■ 一酸化炭素について

一酸化炭素中毒を防ぐために、風通しの良い場所でエンジンをかけてください。
排気ガスに含まれる一酸化炭素は、無色・無臭のために発生に気付きにくい気体です。一酸化炭素中毒になると、軽度の場合は頭痛や吐き気からはじまり、重度になると致命傷に致る危険性があります。

⚠警 告

閉めきったガレージの中など、風通しの悪い場所ではエンジンをかけないでください。

排気ガス中の一酸化炭素などの有害な成分により、中毒になるおそれがあります。

■ 交通ルールを守りましょう

運転するときは、交通ルールを順守してください。礼儀やマナーのある運転を行い、他の運転者の模範になれるようにしましょう。

■ まとめ

事故を回避するには環境に応じた判断力と注意力が必要です。交通状況はもちろん、路面や天候に加え、お車の状態も変化します。また、他の車の動きは予測しにくいため、常に注意を払いましょう。
なれていない運転方法や無茶な運転は、事故の原因になります。
ヘルメットや保護具はしっかりと着用しましょう。

運転の前に

■ ならし運転

＜概要＞

新車時からの最初の1,000 kmは、車の寿命にとって最も大切な期間です。この期間に正しくならしをすることによって、寿命をのばし、本来の性能を得ることができます。

ならし運転中は、不必要な空ぶかしや急加速、急減速、急ハンドル、急ブレーキは避けてください。

ならし運転については、次の手順を参照してください。

＜スロットル開度＞

最初の1,000 kmを走行するまでは、スロットル開度1/2以下で走行してください。

＜ならし運転のコツ＞

ならし運転中のエンジン回転数には、変化をつけるようにしてください。回転数に変化をつけることで部品にかかる負荷が変わり、部品に当たりをつけることができます。エンジン部品に当たりをつけるために、ある程度の負荷は必要ですので回転数の限度を超えない範囲で運転してください。

＜タイヤを交換したとき＞

新しいタイヤは、エンジンと同じように本来の性能を引き出すためには、ならしが必要です。新しいタイヤはスリップしやすいので、最初の160 kmは、できるだけ倒す角度を小さくしてください。最初の160 kmを超えてからは、倒す角度を徐々に大きくして、ならしてください。また、最初の160 kmまでは、急加速、ハードなコーナリング、急ブレーキを避けてください。

⚠警 告

新品のタイヤはすべりやすいため、タイヤのならし運転を適切に行わないと転倒するおそれがあります。

新品タイヤ装着時は「ならし運転」（☞P.10）を参照して、約160 km走行するまでタイヤのならし運転を行ってください。

■ 坂道では

＜坂道での走りかた＞

- 高いギヤで急な坂を登っていると、出力が不足してスピードが落ちるときがあります。スピードが落ちる前に低いギヤにシフトダウンしましょう。スピードが落ちすぎる前に素早くシフトしてください。
- 長い下り坂では、エンジンブレーキを併用しましょう。スロットルグリップを戻すことによってエンジンブレーキがはたらきます。より強いエンジンブレーキを必要とするときは、5速→4速…とシフトダウンします。長い間ブレーキをかけ続けるとブレーキが過熱して効きが悪くなりますので、注意してください。
- 下り坂でのエンジン回転のあがりすぎには注意してください。

⚠警 告

長時間ブレーキをかけ続けると、ブレーキが過熱して効きが悪くなりますので、事故の原因になるおそれがあります。

下り坂にさしかかる前には、十分減速してください。

注 記

上り坂などで、アクセル操作やクラッチレバー操作でバランスを取るなどして車を停止させようとしないでください。

クラッチが過熱し、故障の原因となります。

■ 停車時や駐車時は

＜停めかた＞

車から離れるときは、盗難抑止のため必ずハンドルをロックし、キーは抜いてお持ちください。「メインスイッチ」（☞P.49）参照

- 交通の邪魔にならない場所に駐車してください。
- 違法駐車はしないでください。
- 車は平坦でしっかりした地面の場所に、ハンドルを左に切って駐車してください。ハンドルを右に切った状態での駐車は避けてください。
- やむをえず傾斜地、砂利の上、でこぼこなところ、やわらかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、車が転倒したり、動いたりしないように十分注意してください。
- エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、エンジンなどに触れないでください。
- 他の人がマフラ、エンジンなどに触れることのない場所に駐車してください。

運転の前に

⚠警 告

マフラに内蔵されている触媒装置は高温になりますので、駐停車したときに燃えやすいものが近くにあると、火災の原因となるおそれがあります。

駐停車するときは、車の周りに枯れ草、木材、紙、油脂類などの燃えやすいものがないことを確認してください。

⚠注 意

エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、エンジンなどが熱くなっています。このときに触れるとやけどを負うおそれがあります。

歩行者や子供などが触れにくい場所に停めてください。

アドバイス

盗難抑止のため、必要に応じてU字ロック等の盗難抑止ロックをしてください。盗難抑止ロックは車両を動かす前に、必ず外してください。

アドバイス

斜面でサイドスタンドを使用して停めると倒れるおそれがあるので、平坦な場所に停めることをおすすめします。斜面に停めざるを得ない場合は、お車の正面を坂の上に向けて停め、タイヤを固定するためにギヤを1速に入れてください。エンジンをかけるときは、ニュートラルにシフトしてください。

■ 車を押して移動するとき

車を押して移動するときは、メインスイッチを**OFF**にしてください。

ブレーキについて

■ ABSとは

ABSは、走行中ブレーキをかけたときにホイールがロックしないように制御する装置です。

ブレーキの操作方法は、ABSを装備していない車と同様にブレーキレバーおよびブレーキペダルで行います。
ABSは、電子制御でブレーキ圧をコントロールしています。このシステムはホイールの回転スピードを監視しており、ホイールロックを検知したときにブレーキ圧力を下げることでホイールロックを防ぐ働きをします。また、8 km/h未満の低速時やバッテリが上がっている場合を除き、常に作動しているため、特別な操作は必要ありません。

ブレーキをかけた時にABSがホイールのロックを防いでいるときには、ブレーキレバーやブレーキペダルが軽く振動しますが異常ではありませんのでそのままブレーキをかけ続けてください。
なお、ABSは、判断ミスや操作ミス、また路面や気象条件によってはABSを非装備の車より制動距離が長くなる場合があります。ABSに頼りすぎないようにしてください。

タイヤサイズを変えるとホイール回転数に影響を与え、正常に機能しないおそれがありますので、必ず指定タイヤ（☞P.110）をご使用ください。

⚠警 告

ABSはすべての路面状況に対応できるものではありませんので、誤った判断や操作をすると事故の原因になるおそれがあります。

路面や気象条件に合わせた運転を行ってください。

アドバイス

ABSは制動距離を短くするものではありません。濡れた路面や雪道、でこぼこ路や下り坂などでは、ABSが付いていない車より制動距離が長くなる場合があります。またABSが付いていない車と同様に路面がすべりやすくなるほど制動距離が長くなります。

ブレーキについて

■ ブレーキのかけかた

1. スロットルグリップを戻します。
2. フロントとリヤのブレーキを同時に使い、エンジンブレーキを併用します。
3. 速度に合わせてシフトダウンします。
4. 停止する前にクラッチを切り、ギヤをニュートラルに入れます。

⚠警 告

急ブレーキや急なシフトダウンは走行安定性を損ない、横すべりや転倒の原因になるおそれがあります。

不必要な急ブレーキや急なシフトダウンは避けてください。特に、車体が傾いているとき、すべりやすい路面や整備されていない路面では、より注意が必要です。

⚠警 告

フロントブレーキまたはリヤブレーキのどちらか一方だけを使用すると制動力を効果的に得られず、衝突やスリップ、バランスを崩すおそれがあります。

制動力を効果的に得るためにはフロントブレーキとリヤブレーキを同時にかけてください。

⚠警 告

ABSを装備、非装備に関係なくコーナリング中に強いブレーキをかけるとスリップやバランスを崩すおそれがあります。ABS装備車でもコーナリング中の強いブレーキによる横すべりは制御できません。

コーナーの手前では十分に減速してください。

⚠警 告

濡れた道、荒れた道、やわらかい道はすべりやすいため、制動距離が長くなるだけでなくスリップやバランスを失うおそれがあります。

すべりやすい路面や整備されていない路面では、ブレーキは早めに、また慎重にかけてください。

⚠警 告

前方車両との車間距離が短いと衝突するおそれがあります。

安全に止まれるように十分な車間距離をとって走行してください。

使用燃料

必ず無鉛ガソリンを使用してください。
不適切な燃料はエンジン内部、スパークプラグや排気系部品の耐久性に影響を与えます。

使用燃料　：無鉛レギュラーガソリン
タンク容量：8.7 L

注 記

指定以外の燃料や不適切な添加剤は、エンジン、燃料装置、触媒装置に損傷をあたえるおそれがあります。

粗悪ガソリン、有鉛ガソリン、その他アルコール系の燃料や不必要な添加剤などは入れないでください。

アドバイス

加速不良やエンジン出力が出ないなどのエンジンの不調が起きるときは、使用しているガソリンが原因の場合があります。そのときは、給油するガソリンスタンドを変えてみてください。ガソリンスタンドを変えても症状が改善しないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

アクセサリの取り付けや積載について

■ アクセサリについて

＜選び方＞

不適切なアクセサリが取り付けられた場合、思わぬ事故の原因となるおそれがあります。安全に運転するためにもスズキ純正アクセサリを推奨します。スズキ販売店ではお車に適合したアクセサリの取り付けができますので、装着の際にはスズキ販売店にご相談ください。

アクセサリを選ぶときは、アクセサリの重量も考慮に入れてください。アクセサリによる重量増加は、ライディングの安全だけでなく走行安定性にも影響をおよぼします。

アクセサリの取り付けや積載について

⚠警 告

不適切なアクセサリの取り付けや改造は、操縦性に影響を与え、思わぬ事故の原因になるおそれがあります。次のことをお守りください。

- **運転前に、アクセサリが適切に取り付けられているかを確認してください。**
- **部品やアクセサリは、純正部品もしくはこの車に合わせて作られたものを使用してください。**
- **取り付けや使用方法については、アクセサリ付属の説明書に従ってください。**
- **疑問な点がありましたらスズキ販売店にご相談ください。**

＜取り付け方と注意点＞

- カウリング、ウインドシールド、バックレスト、サドルバッグ、トラベルトランクなどの風の影響を受けるアクセサリは、できるだけ低くかつ車体の重心位置が変わらないように取り付けてください。マウントブラケットおよび他の取付金具は強度があり、ゆるみにくいものを使用してください。
- 最低地上高およびバンク角を点検してください。アクセサリが、サスペンションやステアリングなどの作動に影響していないことを確認してください。
- トレーラーやサイドカーを牽引するようには設計されていないため、トレーラーやサイドカーを牽引しないでください。
- ハンドルやフロントフォークにアクセサリを取り付けると、操縦性を損なうおそれがあります。重量の増加は操縦性を損なうだけでなく、前輪の振れや走行安定性の悪化の原因となります。ハンドルバーやフロントフォークにアクセサリを取り付ける場合は、できるだけ軽く最小限のものにとどめてください。
- アクセサリによっては、正常なライディングポジションが取れなくなり、操縦性を悪化させる原因になります。正常なライディングポジションが取れることを確認してください。
- 電装アクセサリによっては、大きな負荷によってワイヤハーネスが損傷し、運転中にエンジンが停止するなどの危険な状態を引き起こす可能性があります。スズキ純正アクセサリをご使用ください。

■ 積載について

荷物を積むと、積まないときにくらべ操縦性・安定性が変わります。

⚠警 告

過積載や、不適切な積み方は車体のバランスを失う原因になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

この取扱説明書の積載限度および積載のガイドラインに従ってください。

＜積載のガイドライン＞

この車は同乗者を乗せていないときは、リヤシートに小さい荷物をのせることができるように設計されています。荷物をのせる場合には、次のガイドラインに従ってください。

- 荷物をリヤシートに積むときは、荷物をゴムバンドなどでしっかり固定し、積みすぎないようにしてください。
- サドルバッグなどを取り付けて荷物をのせるときは、車体の左右に均等に振り分けて積み、しっかりと固定してください。
- 荷物はできる限り少なくし、車体の中心に近い場所に積んでください。
- 必要に応じてサスペンションのセッティングを調整してください。
- 大きな物や重い積載物は、ハンドルバー、フロントフォーク、リヤフェンダーに取り付けないでください。
- 荷物入れや荷台ボックスを、テールエンドから車体の外に突き出して取り付けないでください。
- テールエンドから車体の外に突き出るものはのせないでください。
- 積載方法が悪いと、バランスを失わせ、車の操縦性に影響を与えます。荷物をのせているときやアクセサリを取り付けた状態で運転するときは、通常より速度を落として運転してください。
- 前後のタイヤとも、適正な空気圧に調整してください。空気圧は「タイヤ空気圧の点検」(☞P.111)を参照してください。

⚠警 告

高温のマフラやエンジンなどに荷物が触れると、荷物や車両の火災の原因となるおそれがあります。

荷物を積むときは、高温になるところに荷物が触れないようにしてください。

改造について

不正改造はやめましょう。
車の構造や機能に関係する改造は、操縦性を悪くしたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることになります。このような改造は法律に触れるばかりでなく、他の人の迷惑となります。
車の改造は保証の適用を除外されますのでご了承ください。

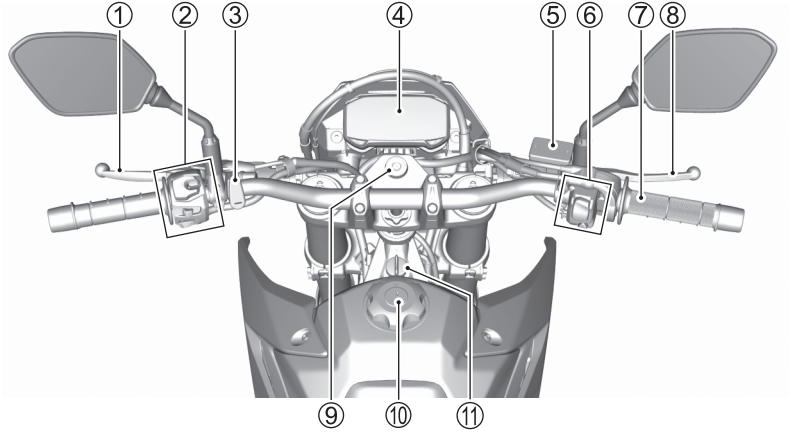
- この車は、排出ガス規制適合車です。車両には排気ガスを浄化する触媒装置が搭載されています。マフラを変更すると、排出ガス規制に適合しなくなるおそれがありますので、マフラを交換する場合はスズキ販売店にご相談ください。
- マフラには、スズキ純正部品を表す“SUZUKI”マークが刻印されています。
- 自己流のエンジン調整、部品の取り外しは行わないでください。エンジン調整はスズキ販売店にご相談ください。
- あなたのお車に適したスズキ純正部品および指定・推奨油脂類をお使いいただくことをおすすめします。純正部品は厳しく検査し、スズキ車に適するように作られています。
- お車に荷物やアクセサリを取り付けるときは、積載限度を守ってください。

メ モ

装備一覧

■ 各部の名称

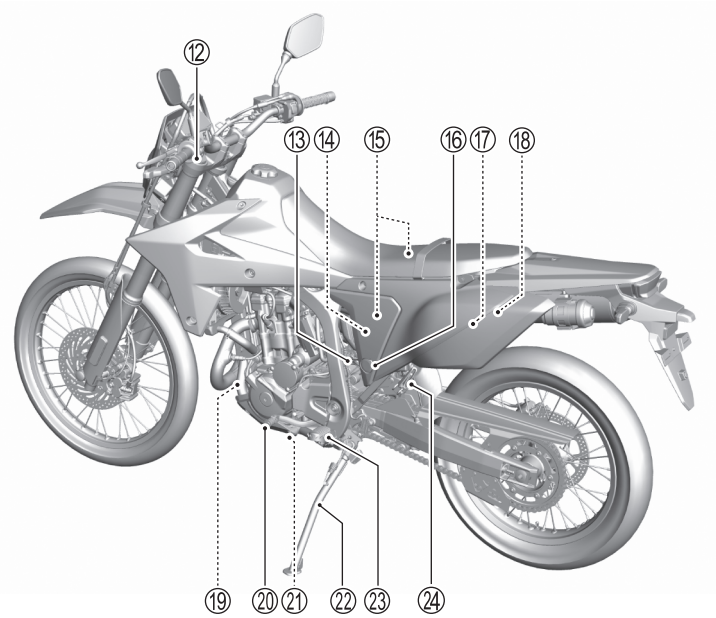
ハンドル周り(DR-Z4S/SM)



ハンドル周り(DR-Z4S/SM)

① クラッチレバー（☞P.103）
② 左ハンドルスイッチ（☞P.25）
③ ヘルメットロック（☞P.67）
④ メータ（☞P.29）
⑤ フロントブレーキリザーバタンク（☞P.104）
⑥ 右ハンドルスイッチ（☞P.25）
⑦ スロットルグリップ
⑧ ブレーキレバー（☞P.64）
⑨ メインスイッチ（☞P.49）
⑩ フューエルタンクキャップ（☞P.60）
⑪ エンジンオイル注入口（☞P.91）

車両左側(DR-Z4S)

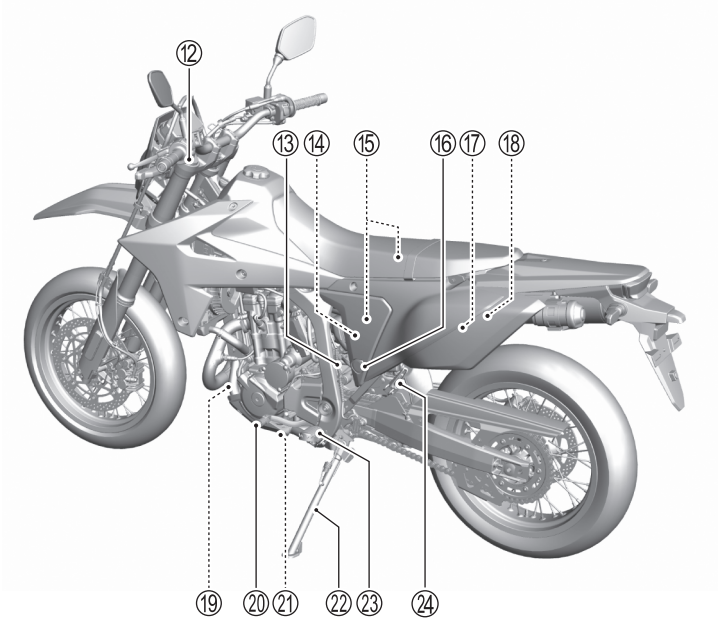


車両左側(DR-Z4S)

⑫ フロントサスペンション（☞P.68）
⑬ エアクリーナドレンチューブ（☞P.88）
⑭ エアクリーナ（☞P.85）
⑮ サービス工具（☞P.80）
⑯ フレームカバーロック（☞P.65）
⑰ バッテリ（☞P.82）
⑱ ヒューズ（☞P.115）
⑲ エンジンオイルドレンプラグ（フレームチューブ）
⑳ シフトペダル（☞P.62）
㉑ エンジンオイルドレンプラグ（クランクケース）
㉒ サイドスタンド（☞P.59）
㉓ フットレスト
㉔ 後席用フットレスト

装備一覧

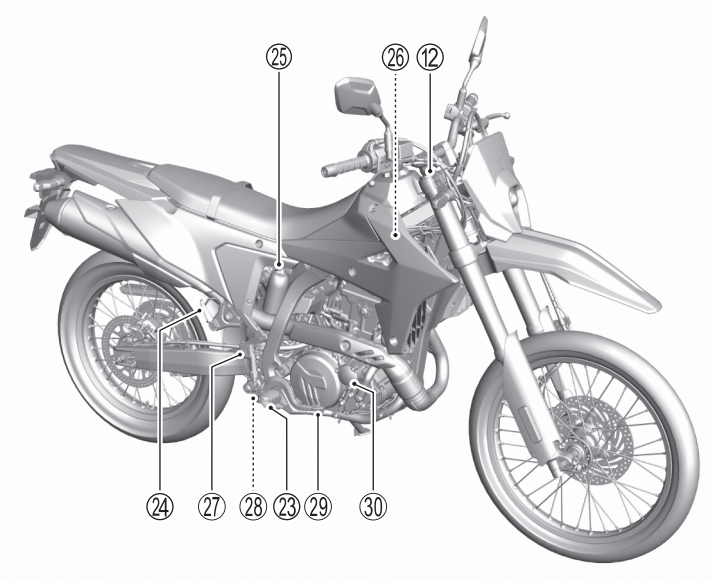
車両左側(DR-Z4SM)



車両左側(DR-Z4SM)

⑫ フロントサスペンション（☞P.68）
⑬ エアクリーナドレンチューブ（☞P.88）
⑭ エアクリーナ（☞P.85）
⑮ サービス工具（☞P.80）
⑯ フレームカバーロック（☞P.65）
⑰ バッテリ（☞P.82）
⑱ ヒューズ（☞P.115）
⑲ エンジンオイルドレンプラグ（フレームチューブ）
⑳ シフトペダル（☞P.62）
㉑ エンジンオイルドレンプラグ（クランクケース）
㉒ サイドスタンド（☞P.59）
㉓ フットレスト
㉔ 後席用フットレスト

車両右側(DR-Z4S)

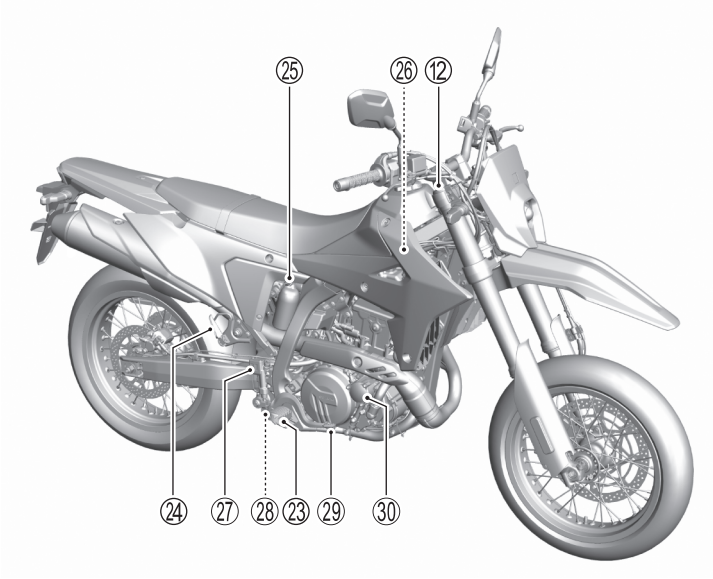


車両右側(DR-Z4S)

㉕ リヤサスペンション（☞P.72）
㉖ 冷却水リザーバタンク（☞P.94）
㉗ リヤブレーキリザーバタンク（☞P.104）
㉘ リヤブレーキランプスイッチ（☞P.109）
㉙ リヤブレーキペダル（☞P.108）
㉚ エンジンオイルフィルタ（☞P.89）

装備一覧

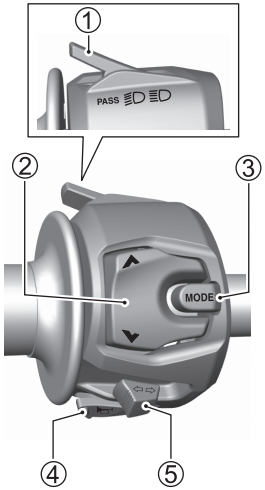
車両右側(DR-Z4SM)



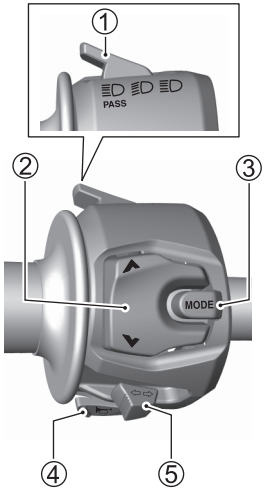
車両右側(DR-Z4SM)

㉕ リヤサスペンション（☞P.68）
㉖ 冷却水リザーバタンク（☞P.94）
㉗ リヤブレーキリザーバタンク（☞P.104）
㉘ リヤブレーキランプスイッチ（☞P.109）
㉙ リヤブレーキペダル（☞P.108）
㉚ エンジンオイルフィルタ（☞P.89）

ハンドルスイッチ

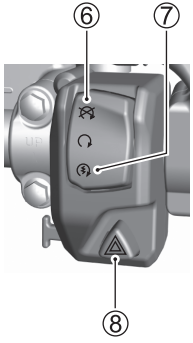


（DR-Z4S）



（DR-Z4SM）

左ハンドルスイッチ



右ハンドルスイッチ

左ハンドルスイッチ

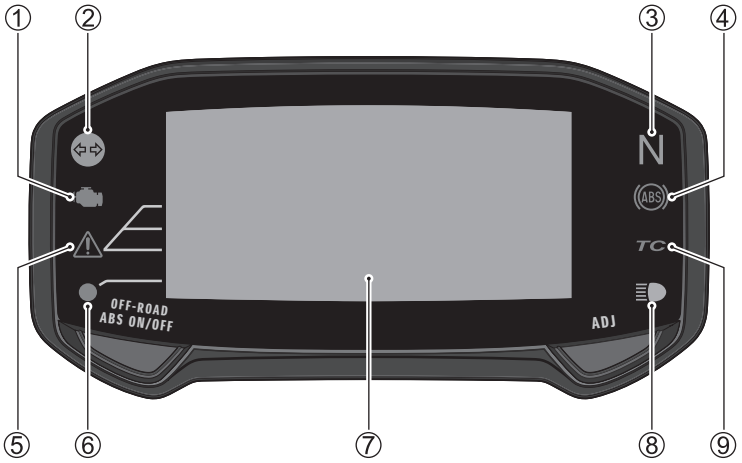
① ディマスイッチ / パッシングスイッチ（☞P.52）
② セレクトスイッチ（☞P.53）
③ モードスイッチ（☞P.53）
④ ホーンスイッチ（☞P.53）
⑤ ターンシグナルスイッチ（☞P.53）

右ハンドルスイッチ

⑥ エンジンストップスイッチ（☞P.53）
⑦ スタータスイッチ（☞P.54）
⑧ ハザードスイッチ（☞P.54）

装備一覧

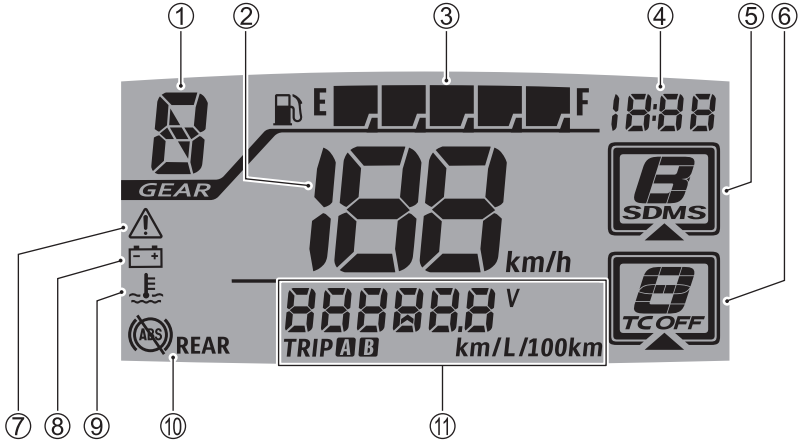
警告灯、インジケータライト



警告灯、インジケータ

① エンジン警告灯（MIL）（☞P.31）
② ターンシグナルインジケータライト（☞P.30）
③ ニュートラルインジケータライト（☞P.31）
④ ABS 警告灯（☞P.34）
⑤ マスターウォーニングインジケータライト（☞P.32）
⑥ ABS ファンクションインジケータライト（☞P.35）
⑦ LCD(液晶ディスプレイ)（☞P.27）
⑧ ハイビームインジケータライト（☞P.33）
⑨ TC インジケータライト（☞P.30）

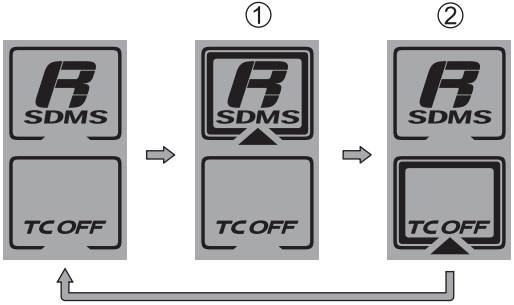
LCD(液晶ディスプレイ)



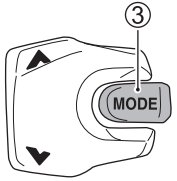
① ギヤポジション表示（☞P.36）
② スピードメータ（☞P.36）
③ フューエルメータ（☞P.36）
④ 時計（☞P.40）
⑤ ドライブモード表示（SDMS 表示）（☞P.41）
⑥ トラクションコントロールシステム表示（☞P.43）
⑦ マスターウォーニングインジケータ（☞P.32）
⑧ 充電警告灯シンボル（☞P.32）
⑨ 水温計シンボル（☞P.32）
⑩ ABS オフインジケータ（☞P.47）
⑪ インフォメーションウインドウ（☞P.37）

装備一覧

<ライド設定>



モードスイッチ ③を押すと設定項目が切り替わります。



ライドビューで①～②の項目を設定します。

① SDMS (☞ P.41)

ドライブモード(SDMS)を選択します。

(Aモード/Bモード/Cモード)

② TC (☞ P.43)

トラクションコントロールシステムのモードを選択します。

(Gモード/OFF/モード1/モード2)

メータの見かた

⚠警 告

走行中のディスプレイ切り替え操作は、交通状況が許す場合のみご使用ください。運転者はこの車両を安全に運転する責任があります。

ディスプレイ切り替え操作時は、交通状況に十分留意し、ご使用ください。

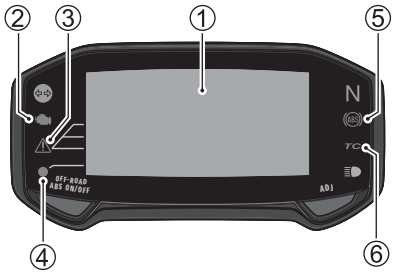
⚠警 告

ディスプレイ切り替え操作の際、ハンドルスイッチの誤操作は、事故の原因となるおそれがあります。

ディスプレイ切り替え操作時は、モードの移行および値が意図した設定になっているか確認してから走行してください。

■ メインスイッチをONにしたとき

- LCD(液晶ディスプレイ)① オープニング動作を行います。
- 次の警告灯、インジケータライトが約3秒間点灯します。
  - エンジン警告灯(MIL)②
  - マスターウォーニングインジケータライト③
  - ABS ファンクションインジケータライト④
- 次の警告灯、インジケータライトが点灯します。
  - ABS 警告灯⑤
  - TCインジケータライト⑥



アドバイス

警告灯、インジケータの消灯する条件は、各警告灯、インジケータの項目を参照してください。

メータの見かた

■ ターンシグナルインジケータライト ⇦⇨

右または左のターンシグナルランプが作動すると、ターンシグナルインジケータライトが点滅します。

アドバイス

電気回路に不具合があるときは、通常時より早く点滅して異常があることをお知らせします。

■ TCインジケータライト *TC*

TCインジケータライトの作動は、お車の設定によって異なります。設定は「トラクションコントロール システム」（☞P.43）を参照してください。

- メインスイッチを ON にすると点灯し、速度が約6 km/h以上になるとトラクションコントロールシステムが作動可能な状態になり消灯します。
- トラクションコントロールシステム作動時は点滅します。
- トラクションコントロールシステムをOFFに設定すると常時点灯します。

メインスイッチをONにしたとき以外にTCインジケータライトが点灯したときは、車両を安全な場所に停車してメインスイッチをOFFにしてください。少し時間をおいてからエンジンを始動し、6 km/h以上で走行したときのTCインジケータライトとエンジン警告灯(MIL)の点灯状態を確認してください。

- 6 km/h 以上で走行したときに TC インジケータライトが消灯すれば、正しく機能しています。
- 6 km/h 以上で走行しても TC インジケータライトが消灯しない場合は正しく機能していません。消灯しないときは、スズキ販売店にご相談ください。

⚠警 告

トラクションコントロールシステムに異常があるときは、TCインジケータライトとエンジン警告灯(MIL)が同時に点灯します。このときには、トラクションコントロールシステムが作動しません。

同時に点灯したときは、トラクションコントロールシステムをOFFに設定して、スズキ販売店で点検を受けてください。

■ ニュートラルインジケータライト N

トランスミッションがニュートラル（ギヤが入っていない）のときに緑色のインジケータライトが点灯します。ニュートラル以外のときに消灯します。

■ エンジン警告灯(MIL)

メインスイッチをON にすると、ランプチェックのため3秒間点灯し、その後消灯します。

エンジンの排ガス低減制御装置や電子制御装置に異常があるとき、または失火を検知すると点灯または点滅します。このときは、オドメータ表示部に“FI”を表示します。

注 記

点灯/点滅したまま走行を継続すると、排ガス低減装置や操縦性へ影響を与えます。

エンジン運転中に点滅した場合は、触媒装置が損傷するおそれがありますので速やかに停車し、エンジンを止めてください。やむをえず走行する場合は、スロットルを大きく開けず低速で走行してください。その後、速やかにスズキ販売店で点検を受けてください。

アドバイス

運転中にエンジン警告灯(MIL)が点灯または点滅した場合は、すぐにスズキ販売店にご相談ください。

メータの見かた

■ マスターウォーニングインジケータライト ⚠/マスターウォーニングインジケータ ⚠/充電警告灯シンボル 🔋/水温警告灯シンボル

メインスイッチを ON にするとランプチェックのため黄色から赤色の順で点灯し、正常時は消灯します。
マスターウォーニングインジケータライト①(黄または赤)の点灯時は、LCDにマスターウォーニングインジケータⒶ、充電警告灯シンボルⒷ、水温警告灯シンボルⒸのいずれかを表示します。



アドバイス

運転中にマスターウォーニングインジケータライトが点灯したら、スズキ販売店にご相談ください。

故障状況に応じてマスターウォーニングインジケータライトの点灯色、インジケータ、シンボルおよびオドメータ表示が変わります。

	マスターウォーニングインジケータライト	インジケータ / シンボル	オドメータ表示
バッテリ充電系統に異常が発生したとき	点灯（赤）	🔋	–
冷却水の温度が規定値を超えたとき	点灯（赤）	🌡	–
エンジン故障時（排ガス関連のとき）	–	–	F1
エンジン故障時（排ガス関連以外のとき）	点灯（黄）	⚠	F1
転倒したとき、転倒センサの故障時	点灯（黄）	⚠	tO
メインスイッチの故障、盗難判定時	点灯（黄）	⚠	IG
コントローラ通信異常時	–	–	CHEC
ハンドルスイッチの故障時	点灯（黄）	⚠	F1 SW

アドバイス

- 水温警告灯シンボル/マスターウォーニングインジケータライト(赤)が点灯したら、エンジンを停止し、エンジンが冷えてから冷却水の量を点検してください。
- 水温警告灯シンボルとマスターウォーニングインジケータの両方が表示される状況では、マスターウォーニングインジケータライト(赤)が点灯します。
- オドメータ表示に “CHEC” と表示されたときは、次の項目を確認してください。
  - 各ヒューズが切れていないか
  - リード線カプラ等の接続不良がないか

注 記

水温警告灯シンボル/マスターウォーニングインジケータライト(赤)が点灯した状態で運転するとエンジンに重大な損傷を与えるおそれがあります。

水温警告灯シンボル/マスターウォーニングインジケータライト(赤)が点灯したら、エンジンを停止し冷ます。水温警告灯シンボル/マスターウォーニングインジケータライト(赤)が消灯するまでエンジンを始動しないでください。

■ ハイビームインジケータライト

ヘッドランプが上向きのときに青色のインジケータライトが点灯します。

メータの見かた

■ ABS 警告灯 (ABS)

- メインスイッチを ON にすると点灯し、車速が約5 km/hを超えると消灯します。
- ABS(アンチロックブレーキシステム) に異常がある場合、またはABSモードが“OFF”(DR-Z4S)の場合、点灯し続けます。点灯している間は、ABSは作動しません。

⚠警 告

ABS警告灯が点滅または点灯しているときはABSが作動しません。この状態で急ブレーキをかけるとホイールがロックすることがあります。

もし、運転中にABS警告灯が点滅または点灯したときは(ABSモード“OFF”時を除く)、速やかにスズキ販売店で点検を受けてください。

⚠警 告

ABS警告灯が点灯したまま走行するのは、いざというときにABSが作動せずに事故の原因になるおそれがあります。

もし、運転中にABS警告灯が点滅または点灯したときは(ABSモード"OFF"時を除く)、安全な場所に停車して、メインスイッチをOFFにしてください。少し時間をおいてからエンジンを始動してABS警告灯を確認します。

- **走行を開始し、ABS 警告灯が消灯すれば正常に機能しています。**
- **走行を開始しても、ABS 警告灯が消灯しない場合はABSが機能していませんので、スズキ販売店で点検を受けてください。**

アドバイス

走行前にエンジンの空ぶかしをすると、ABS警告灯が消灯する場合があります。走行前にABS警告灯が消灯したときはメインスイッチを一旦OFFにし、再度ONにしてABS警告灯が点灯することを確認してください。メインスイッチをONにしたときにABS警告灯が点灯しない場合は、速やかにスズキ販売店で点検を受けてください。

アドバイス

下記のときに一旦消灯したABS警告灯が一時的に再点灯する場合があります。速度が5 km/hを超えた後に消灯していれば故障ではありません。

- バッテリ電圧が低下したとき
- エンジンストップスイッチなどによるエンジン停止後の再始動時

アドバイス

ABSモードを“OFF”に設定した場合、ABS警告灯が点灯し続けますが異常ではありません。

ABSファンクションインジケータライトとABSオフインジケータの点灯を確認してください。

■ ABSファンクションインジケータライト

ABSモードを“OFF”(DR-Z4S)または“REAR-OFF” に設定した場合、ABSファンクションインジケータライトが点灯します。
詳細は「ABSモード」(☞P.47)を参照してください。

メータの見かた

■ スピードメータ

走行速度をkm/h の単位で示します。



■ ギヤポジション表示

ギヤポジションを表示します。ニュートラル（ギヤが入っていない）のときはNを表示します。

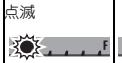


■ フューエルメータ

フューエルタンク内のガソリン残量を表示します。

- 満タン時はすべてのセグメントを点灯します。
- 2.1L 未満になるとマーク ① が点滅します。
- 0.8L 未満になるとマーク ① とセグメント②が点滅します。



ガソリン残量	約 0.8L	約 2.1L	満タン
セグメント	点滅 		
マーク	点滅 	点滅 	

注 記

フューエルタンク内のガソリンを使い切る（ガス欠）と触媒装置を損傷することがあります。

ガソリンを使い切る（ガス欠）前に給油してください。

アドバイス

- **サイドスタンド状態でメインスイッチをONすると、フューエルメータはガソリンの量を正しく表示できません。正確に表示させるには車体を垂直にした状態でメインスイッチをONにしてください。**
- **車体を傾けた走行をしたときに、フューエルメータのガソリン残量の表示が変わることがあります。残量の確認は、車体を垂直にした状態で確認してください。**
- **マークと最終セグメントが点滅したときはガソリンの残量がほとんど無い状態です。点滅したら、すみやかにガソリンを給油してください。**

■ インフォメーションウインドウ

メインスイッチをONにしてメータディスプレイを表示します。



⚠警 告

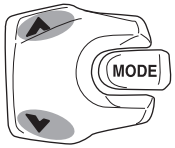
走行中にメータやスイッチの操作に注視すると、事故の原因になります。走行中はディスプレイの切り替えをしないでください。

ディスプレイの切り替えや設定の確認は停車して行ってください。

メータの見かた

設定方法

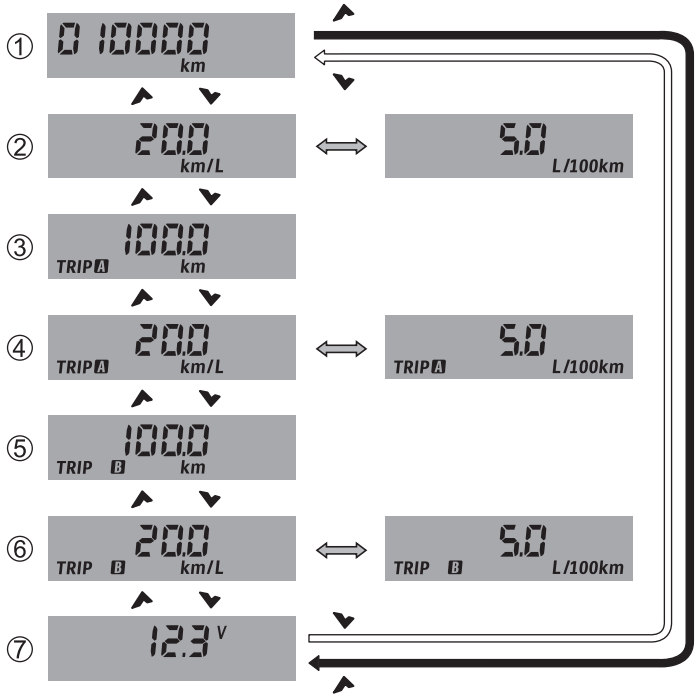
セレクトスイッチ ▲ / ▼ を使用して表示を切り替えます。



次の項目を設定することができます。

➡	セレクトスイッチ ▲
⇨	セレクトスイッチ ▼
⟹	セレクトスイッチ ▲ (長押し)

① オドメータ
② 瞬間燃費計
③ トリップメータ A
④ 平均燃費計 A
⑤ トリップメータ B
⑥ 平均燃費計 B
⑦ 電圧計



オドメータ



総走行距離を示します。999,999 kmまで表示します。

アドバイス

オドメータの表示が999,999 kmを超えた場合は、999,999 kmで固定されます。

瞬間燃費計





走行中の瞬間燃費を次の範囲で表示します。

- km/L　　：0.1 ～ 99.9
- L/100 km：1.0 ～ 99.9

アドバイス

- **車速が 3 km/h 以下のときは燃費測定されません。**
- **燃費計は、おおよその値を示したものです。実際の値とは異なる場合があります。**

トリップメータ



リセット後の走行距離を9999.9 まで表示します。

- TRIP A、TRIP Bの2つのモードがあります。
- セレクトスイッチ ▲ を約2秒間押すとリセットし、0.0を表示します。リセットされるのは表示しているTRIP AまたはTRIP Bだけで、表示していない方はそのままです。
- リセットすると対応する平均燃費計もリセットします。

アドバイス

9999.9を超えると0.0に戻り、計測を続けます。

メータの見かた

平均燃費計



- TRIP A、TRIP B各々の走行距離に対する燃費を表示します。
  次の範囲で表示します。
  - km/L　　：0.1 ～ 99.9
  - L/100 km ：1.0 ～ 99.9
- トリップメータをリセットすると対応する平均燃費計もリセットします。
- トリップメータが0.0表示のときは、平均燃費計は--.-を表示します。

アドバイス

燃費計は、おおよその値を示したものです。実際の値とは異なる場合があります。

電圧計



バッテリの電圧を10.0 V ～ 16.0 Vの範囲で表示します。

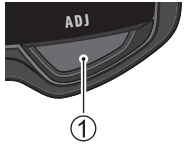
アドバイス

- **表示される値は、他の計測器の値と異なる場合があります。**
- **12.0 V 以下の電圧を頻繁に表示する場合は、スズキ販売店にご相談ください。**

■ 時計

メインスイッチをON にして、時計を表示します。時分を表示します。(12時間表示)





以下の手順で時計を調整します。

1. ADJスイッチ①を約2秒間長押しすると時表示が点滅します。
2. ADJ スイッチ ① を押し、時表示を調整します。
3. ADJ スイッチ ① を約 2 秒間長押しすると分表示が点滅します。
4. ADJ スイッチ ① を押し、分表示を調整します。

5. ADJ スイッチ ① を約 2 秒間長押しすると調整が終了します。

アドバイス

メインスイッチOFFでも、メータには微少電流が流れ、電力を消費しています。長期間（2か月以上）乗らない場合は、バッテリを外してください。詳細はP.122のアドバイスをご覧ください。

運転アシストシステムの設定

■ ドライブモード（SDMS）

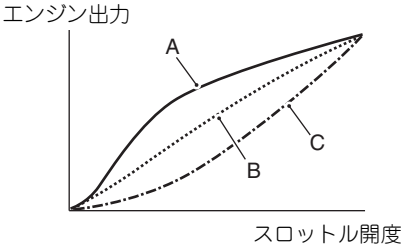
高速クルージングや混雑路など様々な走行状況の中で好みに応じたエンジンの出力特性を、A、B、Cのドライブモードから選択することができる装置です。







ドライブモードの特性



<Aモード>

スロットルを開いたときのレスポンスが最も鋭くなります。エキサイティングな加速を提供するようにチューニングされており、良好な路面でアグレッシブな走りを楽しむのに適しています。

運転アシストシステムの設定

<Bモード>

ソフトなスロットルレスポンスと直線的なパワー供給カーブを特長としています。スロットルを開けて、さまざまなライディングスタイルや路面状況に合わせたセッティングが可能です。

<Cモード>

ソフトなスロットルレスポンスとゆるやかなトルク特性により、快適性を優先しています。このモードは、ゆるい路面や滑りやすい路面に乗るときに便利です。

モードの設定

⚠警 告

ドライブモードを走行中に操作すると、エンジン速度とエンジン出力が変動し、走行安定性を損なうことがあります。

ドライブモードの操作は、停車して行ってください。

⚠警 告

走行中にメータやスイッチを注視すると事故の原因になります。

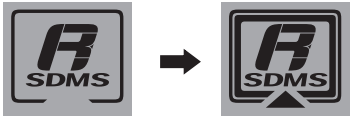
モード切り替えは回りの安全に十分に注意して行ってください。

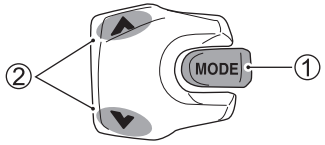
アドバイス

- **ドライブモード切り替えができないときは、ドライブモード表示が点滅します。**
- **正しく操作してもドライブモードの切り替えができないときは、安全な場所に停車して、メインスイッチを一旦OFFにしてください。メインスイッチのOFF後、5～8秒待ってから再度メインスイッチをONにしてください。再度メインスイッチをONにした後もドライブモードの切り替えができないときは、スズキ販売店に点検を依頼してください。**

次の手順で設定します。
なお、設定中にメインスイッチをOFFするとOFFにしたときに選択していたモードが適用されます。

1. メインスイッチをONにします。
2. モードスイッチ① を押して“SDMS”を選択状態にします。





3. セレクトスイッチ ▲ / ▼ ② を押してモードを切り替えます。

アドバイス

- **モードはスロットルを大きく開けていないときに切り替えできます。**
- **モード切り替えができないときは、セレクトスイッチ ▲ / ▼ を押したとき、モード表示が点滅します。**



4. モードスイッチ ① を押すと設定を決定 し、“SDMS”の選択状態を解除します。

■ トラクションコントロールシステム

トラクションコントロールシステムとは、スロットルグリップを回しているときにシステムがリヤタイヤの空転を感知すると、エンジン出力を制御してリヤタイヤのグリップ力を回復させる機能です。
トラクションコントロールシステムがエンジン出力を制御しているときは、TCインジケータライトが点滅します。

運転アシストシステムの設定

⚠警 告

指定以外のタイヤやスプロケットを使用すると、トラクションコントロールシステムがエンジン出力を正常に制御することができません。

タイヤやスプロケットは指定のものを使用してください。

⚠警 告

トラクションコントロールシステムは、あらゆる条件下での後輪のスリップ（空転）を完全に制御したり、転倒を防止したりするものではありません。

カーブでのオーバースピードや深すぎるバンク角による横すべり、ブレーキングやエンジンブレーキなどによるリヤタイヤのスリップ（空転）は、制御することができません。技量、天候、路面状況に応じた適切な速度で運転してください。

トラクションコントロールシステムは、リヤホイールの空転を少なくするようにエンジン出力を制御します。
次のモードを選択できます。

<Gモード>

未舗装路(DR-Z4S)または平坦な未舗装路(DR-Z4SM)のモード設定です。舗装路用モードと比較して、より駆動力が働くように設定されたモードです。

<OFF>

OFFを選択すると、リヤホイールが空転しても、エンジン出力を制御しません。

<モード1、2>

舗装路用のモード設定です。感度レベルはモード1の感度レベルが最も低く、モード2の感度レベルが最も高く設定されています。

注 記

未舗装路で長時間に渡りリヤホイールの空転を発生させ続けると触媒装置が損傷するおそれがあります。

モード1、2は、舗装路用のモード設定のため未舗装路などでモード1または2を使用する場合は注意してください。

アドバイス

Gモードは一定以上のリヤホイールの空転を許容するため、舗装路での使用には適しません。









アドバイス

運転する前に、メータ内のトラクションコントロールシステム表示で設定モードを確認してください。

アドバイス

- トラクションコントロールシステムがエンジン出力を制御すると、エンジン音や排気音が変化することがあります。
- 急加速や悪路走行などで前輪または後輪が地面から離れた場合、トラクションコントロールシステムがエンジン出力を制御することがあります。

モードの設定

⚠警 告

走行中にメータやスイッチを注視すると事故の原因になります。

モード切り替えは回りの安全に十分に注意して行ってください。

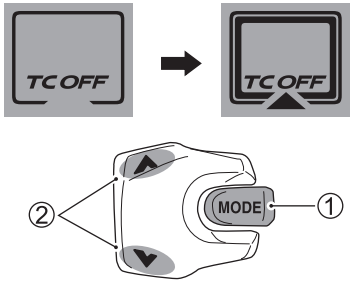
アドバイス

- モードを切り替えられない場合は、モード表示が点滅します。
- 正しく操作してもモードの切り替えができないときは、安全な場所に停車して、メインスイッチを一旦OFFにしてください。メインスイッチのOFF後、5～8秒待ってから再度メインスイッチをONにしてください。再度メインスイッチをONにした後もモードの切り替えができないときは、スズキ販売店に点検を依頼してください。

運転アシストシステムの設定

次の手順で設定します。
なお、設定中にメインスイッチをOFFにするとOFFにしたときに選択していたモードが適用されます。

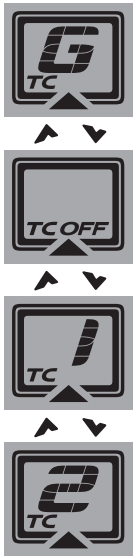
1. メインスイッチをONにします。
2. モードスイッチ①を押して“TC”を選択状態にします。



3. セレクトスイッチ ▲ / ▼ ② を押してモードを切り替えます。

アドバイス

- **モードはスロットルを大きく開けていないときに切り替えできます。**
- **モード切り替えができないときは、セレクトスイッチ ② を押したときにインジケータが点滅します。**

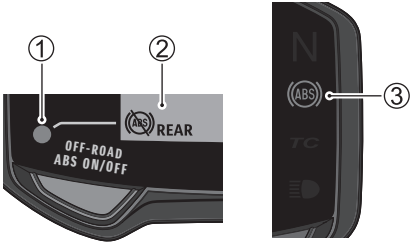


4. モードスイッチ ① を押すと設定を決定し、“TC”の選択状態を解除します。

■ ABSモード

ABS介入を次のように設定します。

- “ON”：フロントおよびリヤブレーキのABS介入。
- “REAR OFF”：リヤブレーキの ABS 介入の停止。
- “OFF”（DR-Z4S）：フロントおよびリヤブレーキのABS介入の停止。



① ABS ファンクションインジケータライト
② ABS オフインジケータ
③ ABS 警告灯

ABSモードの設定に応じて、ABSファンクションインジケータライト、ABSオフインジケータ、ABS警告灯が以下のように点灯します。

モード	ABSファンクション インジケータライト	ABSオフ インジケータ	ABS 警告灯
ON	–	–	–
REAR-OFF	点灯	REAR	–
OFF (DR-Z4S)	点灯		点灯

アドバイス

舗装路では常にABSを作動させて走行することをおすすめします。

未舗装路を走行する場合は、必要に応じて“OFF”（フロントおよびリヤホイール）（DR-Z4S）または“REAR OFF”（リヤホイールのみ）を選択してABS介入を停止することができます。

運転アシストシステムの設定

モードの設定

ABSモードの設定は、車両を停車しているときに変更できます。

⚠警 告

走行中にメータやスイッチを注視すると事故の原因になります。

ABSモード設定は回りの安全に十分に注意して車両を停車して行ってください。

以下の手順に従って設定してください。
メインスイッチをOFFにすると、ABS介入は“ON”になります。

1. 車両を安全な場所に駐車し、メインスイッチを ON にします。
2. ABS ON/OFF スイッチ ① を長押しして、ABS モードを選択します。



ON



REAR-OFF



OFF
(DR-Z4S)

➡: ABS ON/OFFスイッチ① (長押し)

⇨: ABS ON/OFFスイッチ① (短押し)

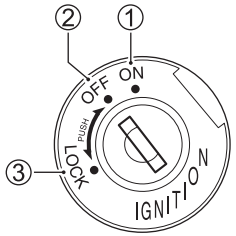
アドバイス

ABS モードを変更できない場合は、ABS ON/OFFスイッチ①を押すとABSオフインジケータが点滅します。

メインスイッチ

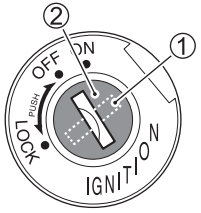
■ ポジション

メインスイッチにはON ①·OFF ②·LOCK ③の3つのポジションがあります。

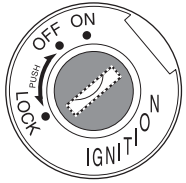


アドバイス

- メインスイッチのキー穴 ① をカバーするリッド②を設けています。



- リッド穴がずれているときは、リッド穴をキー穴に合わせてください。



⚠警 告

衝突やスリップにより転倒した場合は、車両に想定できない異常が発生する可能性があります。また、車両の異常により火災が発生したり、リヤホイールなどの回転する部品に巻き込まれたりする可能性があります。

転倒した場合は、すぐにメインスイッチをオフにして、すべての装置を停止させます。転倒したときには、各部の損傷状態や、走行に支障が無いかを十分に確認してください。見えない部分に損傷を受けている可能性がありますので、スズキ販売店での点検をおすすめします。もし、メインスイッチをONにしたときに警告灯が消えない場合は、スズキ販売店で点検を受けてください。

メインスイッチ

⚠警 告

走行中はキーを操作しないでください。思わぬ事故につながることがあります。

キーは停車後、操作してください。

注 記

走行中にメインスイッチを操作するとエンジンが円滑に回転しなくなり、エンジンや触媒装置に悪影響を与えます。

メインスイッチは走行中に操作しないでください。

OFF

- エンジンが停止します。
- ランプ類が消灯します。
- キーが抜けます。

ON

- エンジンの始動・走行ができます。
- 次のランプが点灯します。
  - ヘッドランプ
  - テールランプ
  - ポジションランプ（フロントターンシグナルランプ）
  - ライセンスランプ
- キーが抜けません。

LOCK

- ハンドルがロックします。
- ランプ類が点灯しません。
- キーが抜けます。

車から離れるときは、盗難抑止のためにハンドルロックをかけましょう。チェーンロックなどの併用もおすすめします。

＜ハンドルロックのかけかた＞

1. ハンドルを左へいっぱいにきります。
2. キーを押し込みながらOFFからLOCKまで回します。
3. キーを抜きます。

アドバイス

- ハンドルを左右に動かして、確実にロックされているか確認してください。
- ロックがかかりにくいときは、ハンドルを少し右に動かしながらキーを回してください。

＜ハンドルロックの外しかた＞

キーを差し込み、押しながらOFFまで回します。

⚠警 告

ハンドルをロックしたまま車を動かすと、バランスを失って転倒する原因になります。

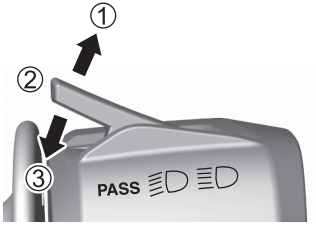
サイドスタンドを出してからハンドルをロックしてください。ハンドルをロックをしたまま車を動かさないでください。

アドバイス

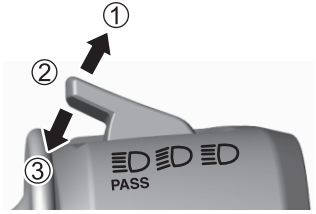
- 走行前にハンドルを左右に動かして、切れ角が左右均等かを確認してください。
- メインスイッチのキー穴をカバーするリッドを設けています。リッド穴がずれているときは、リッド穴をキー穴に合わせてください。

ハンドルスイッチ

■ ディマスイッチ / パッシングスイッチ



(DR-Z4S)



(DR-Z4SM)

① ハイビーム
② ロービーム
③ パッシング

ディマスイッチ

上向きまたは下向きにヘッドランプの向きを切り替えます。

<ハイビーム“≡D”>

スイッチを前方に押すと、ヘッドランプが上向きになります。

<ロービーム“≡D”>

スイッチを手前に引くと、ヘッドランプが下向きになります。

パッシングスイッチ“PASS”(DR-Z4S) / “≡D PASS”(DR-Z4SM)

スイッチを手前に引いている間、ハイビームが点灯します。スイッチをはなすとロービームにもどります。

アドバイス

対向車や先行車があるときはロービームで走行してください。

注記

ランプの熱によりレンズが溶けたり置いた物が損傷することがあります。

停車中に点灯したヘッドランプやテールランプを物でさえぎったり衣類などを被せないでください。

注記

ヘッドランプにテープ類を貼ると貼り付けた箇所がランプの熱で溶けるおそれがあります。

ヘッドランプにテープ類を貼らないでください。

■ セレクトスイッチ“▲/▼”

LCD（液晶ディスプレイ）表示の切り替えや各システムの設定に使用します。
詳細は下記を参照してください。
「LCD(液晶ディスプレイ)」（☞P.27）

■ モードスイッチ“MODE”

LCD（液晶ディスプレイ）表示の切り替えや各システムの設定に使用します。
詳細は下記を参照してください。
「LCD(液晶ディスプレイ)」（☞P.27）

■ ホーンスイッチ

スイッチを押している間、ホーン（警音器）が鳴ります。

■ ターンシグナルスイッチ ⇦⇨

右折または左折するときや進路変更などの合図に使います。

右折 ⇨

スイッチを⇨側にすると、右側ターンシグナルランプが点滅します。解除するにはスイッチを前に押します。

左折 ⇦

スイッチを⇦側にすると、左側ターンシグナルランプが点滅します。解除するにはスイッチを前に押します。

⚠警 告

ターンシグナルスイッチは、点滅したままにしておくと周囲の誤判断を招き、事故を起こすおそれがあります。

ターンシグナルスイッチは自動的に解除されませんので、使用後は必ずスイッチを前に押して解除してください。

■ エンジンストップスイッチ / スタータスイッチ

エンジンストップスイッチ

転倒などの非常時に、直ちにエンジンを停止させます。エンジンストップスイッチを“”（STOP）側に押すとエンジンが停止します。通常は“”にしておきます。

<>

エンジン関連の電気回路がつながっています。
- エンジンの始動ができます。

<>

エンジン関連の電気回路がつながっていません。
- エンジンが停止します。
- エンジンの始動ができません。

ハンドルスイッチ

注 記

走行中にエンジンストップスイッチを→や→→にすると、エンジンが円滑に回転しなくなり、エンジンや触媒装置に悪影響を与えます。

緊急時を除いて、走行中には使用しないでください。

アドバイス

エンジンストップスイッチでエンジンを停止したときは、必ずメインスイッチをOFFにしてください。ONのままにしておくとバッテリあがりの原因になります。

スタータスイッチ“”

スタータスイッチを押すことでスタータモータが回転して、エンジンを始動します。

詳細は「エンジンのかけかた」（☞P.55）を参照してください。

アドバイス

- **エンジンストップスイッチが “” のときはエンジンを始動できません。**
- **スズキイージースタートシステムを装備しているため、スタータスイッチを押すと、スイッチから手を放しても数秒間スタータモータが回り続けます。数秒間経過するか、エンジンが始動するとスタータモータは止まります。**

■ ハザードスイッチ ⚠

故障などの非常時に、停車するとき使用します。スイッチを押すと、すべてのターンシグナルランプが点滅します。

アドバイス

非常時以外は、使用しないでください。エンジン停止状態での使用は、バッテリあがりの原因となります。

エンジンのかけかた

■ エンジンをかける前に

エンジンは、次の手順でかけてください。

1. エンジンストップスイッチが “Ω” になっていることを確認します。
2. メインスイッチを**ON**にします。
3. ニュートラルインジケータライトの点灯を確認します。点灯しないときは、ギヤシフトレバーを操作してニュートラルにします。
4. エンジン警告灯（MIL）の消灯を確認します。
5. スロットルグリップを閉じたまま、スタータスイッチ “㋮” を押します。スズキイージースタートシステムの詳細は「スズキイージースタートシステム」（☞P.57）を参照してください。
6. 走行前にサイドスタンドが完全に格納されているか確認します。サイドスタンドインタロックの詳細は「サイドスタンドインタロック」（☞P.58）を参照してください。

注 記

エンジンの温度上昇によるエンジン本体や車体の損傷を避けるために次のような使いかたをしないでください。

- **長時間のアイドリング**
- **不必要な空ぶかし**
- **スロットルグリップを開けたまま保持し続ける操作**

アドバイス

この車は、スズキイージースタートシステムを装備しているため、スタータスイッチをワンプッシュするだけでエンジンを始動できます。詳細は「スズキイージースタートシステム」（☞P.57）を参照してください。

エンジンがかかりにくいときは

スタータスイッチを2～3回押してもエンジンがかからないときは、スロットルグリップを1/8ほど回し、スタータスイッチ “㋮” を押します。

⚠警 告

排気ガスには一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。閉めきったガレージの中など、風通しの悪い場所では、エンジンをかけないでください。

排気ガスにより、ガス中毒を起こすおそれがあります。

エンジンのかけかた

注 記

スタータスイッチを5秒以上押し続けたりすると、消費電力が多いためバッテリあがりの原因となります。

スタータスイッチを5秒以上押し続けたり、スズキイージースタートシステムを連続で使用したりして、スタータモータを連続して回転させないでください。

注 記

エンジン警告灯(MIL)が点灯したままスタータスイッチを押し続けると、バッテリあがりの原因となります。

エンジン警告灯(MIL)が点灯しているときは、スタータスイッチを押し続けないでください。

注 記

エンジンを始動する前に、ギヤポジション表示とニュートラルインジケータライトの状態を確認してください。以下の状態でない場合は、スズキ販売店で点検を受けてください。

- ギヤポジション表示が N の表示をしているとき、ニュートラルインジケータライトが点灯していること。
- ギヤポジション表示が(1、2、3、4、5)いずれかの表示をしているとき、ニュートラルインジケータライトが消灯していること。

アドバイス

転倒した場合は、エンジンを止めるシステムがエンジンを止めます。また、同時にマスターウォーニングインジケータライトが点灯します。エンジンを再始動するには、車両を起こした後、メインスイッチを一旦OFFにして、再びONにしてください。マスターウォーニングインジケータライトが消灯すると、エンジンの再始動が可能になります。メインスイッチOFF後、マスターウォーニングインジケータライトの消灯には5～8秒かかる場合があります。

■ スズキイージースタートシステム

スタータスイッチをワンプッシュするとエンジンを始動できます。スイッチから手を放してもスタータモータが回り続け、数秒が経過するか、エンジンが始動するとスタータモータは止まります。

- ギヤポジションがニュートラルの場合は、クラッチレバーを握らなくてもエンジンを始動することができます。
- ギヤポジションがニュートラルではない場合は、クラッチレバーを完全に握ることでエンジンを始動することができます。

サイドスタンドとギヤの位置によりエンジンが始動しない場合があります。詳細は「サイドスタンドインタロック」（☞P.58）を参照してください。

アドバイス

バッテリの状態によっては、スズキイージースタートシステムによるエンジン始動が困難な場合があります。エンジンがかかりにくい場合は、クラッチレバーを完全に握り、ギヤをニュートラルにして、スタータスイッチを押し続けてエンジンを始動してください。それでも始動しない場合は、バッテリが弱っていますので、バッテリを充電するか交換してください。もしエンジンがかからないときは、スズキ販売店にご相談ください。

暖機運転は適切に

次のような場合は、数十秒から数分程度の暖機運転を行ってから、走行を開始してください。

- 長期間お車を使用しなかったとき
- 寒冷地などで極低温（−10 ℃以下を目安）にあるとき

上記以外のときはエコ運転のため、エンジンを始動したらすみやかに走行を開始してください。

注 記

エンジン始動直後の空ぶかしや急発進、急加速は、エンジン故障の原因となります。

暖機運転が必要な場合には、数十秒から数分程度の暖機運転を行ってから、走行を開始してください。

注 記

長時間のアイドリングやスロットルグリップを開けたまま保持し続ける操作は、オーバーヒートの原因となり、エンジンや車体の損傷の原因になります。

エンジンのかけかた

■ サイドスタンドインタロック

サイドスタンドを出したままで走行することを防ぐ、外し忘れ防止装置です。サイドスタンドの状態によって次のように作動します。

サイドスタンドが出ている場合

- ギヤが入っているときはエンジンを始動できません。（ニュートラルを除く）
- エンジン回転中にギヤを入れるとエンジンは停止します。

サイドスタンドが出ていない場合

エンジン回転中に、ギヤが入っている状態でサイドスタンドを立てるとエンジンは停止します。

⚠警 告

走行中にサイドスタンドを出すと、エンジンが停止し、思わぬ事故の原因となります。

走行中はサイドスタンドを操作しないでください。

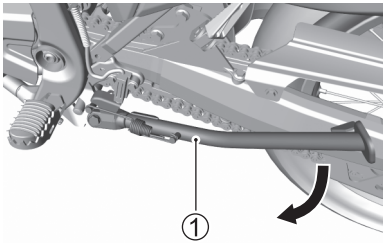
アドバイス

- **サイドスタンドを完全に外していないとき、シフトペダルを操作するとエンジンが停止します。**
- **サイドスタンドがスムーズに作動しないときは、注油してください。**

スタンド

■ サイドスタンド

この車には、駐車するためのサイドスタンドを装備しています。
サイドスタンド①を出すときは、スタンドの端に右足をかけていっぱいに引き出します。
サイドスタンドインタロックの詳細は「サイドスタンドインタロック」(☞P.58)を参照してください。



⚠警 告

サイドスタンドが完全に収納されていない状態で運転すると，左旋回時に事故につながるおそれがあります。

走行前に，サイドスタンドインタロック機能の作動をチェックしてください。発進する前にサイドスタンドを確実に収納してください。

アドバイス

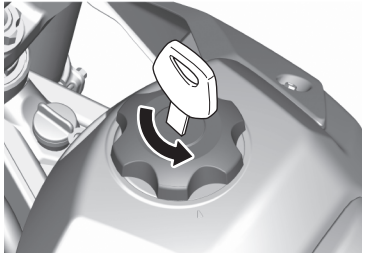
駐車するときは、できるだけ固い平坦な路面に駐車してください。やむをえず傾斜地に駐車する場合は，お車の正面を坂の上に向けて停め、タイヤを固定するためにギヤを1速に入れてください。

ガソリンの給油

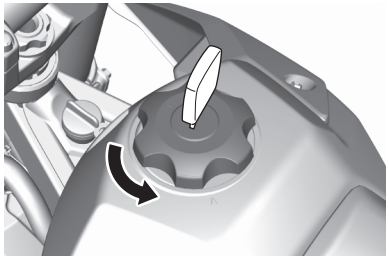
■ 給油の手順

次の手順でガソリンを給油します。

1. フューエルタンクキャップにキーを差し込み、左に回してロックを解除します。



2. キャップを左に回して外します。



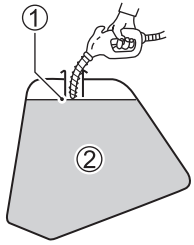
3. ガソリンを給油します。
   キャップからガソリンがにじみ出ることがあるため、給油口の下端①以上入れないでください。

   指定燃料　：無鉛レギュラーガソリン
   タンク容量：8.7 L

注 記

規定以上の量を給油すると、エンジンの不調や始動不良が起こることがあります。

給油口下端以上は、給油しないでください。



② ガソリン

4. キャップを閉じる前にキーがキャップに差し込まれている必要があります。キャップを閉じて、右に回します。キーを右に回して抜きます。

⚠警 告

ガソリンは引火性が高く取扱いを誤ると火災を起こすおそれがあります。

- **ガソリンを給油するときは、エンジンを止めて火気を近づけないでください。**
- **給油は、必ず屋外で行ってください。**
- **フューエルタンクキャップを開ける前に車体や給油機などの金属部分に触れて身体の静電気を除去してください。静電気を帯びていると、放電の火花でガソリンに引火するおそれがあります。**
- **給油操作は、一人で行い他の人を近づけないでください。**
- **こぼれたガソリンは、布などで完全にふき取ってください。**

注 記

加速不良やエンジン出力が出ないなどのエンジンの不調が起きるときは、使用しているガソリンが原因の場合があります。

この場合は、給油するガソリンスタンドを変えてみることをおすすめします。ガソリンスタンドを変えても症状が改善しないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

注 記

ガソリンは、塗装に損傷をあたえます。

給油するときは、外装に付かない様に注意してください。外装に付いたときは、すぐにふき取ってください。

注 記

指定以外の燃料や不適切な添加剤は、エンジン、燃料装置、触媒装置に損傷をあたえるおそれがあります。

粗悪ガソリン、有鉛ガソリン、その他アルコール系の燃料や不必要な添加剤などは入れないでください。

注 記

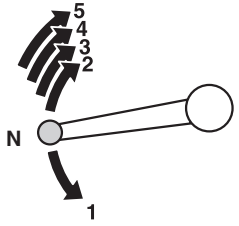
給油時など、フューエルタンクに砂ぼこりや水などの異物が混入すると、フューエルポンプの詰まりの原因となるおそれがあります。

給油するときは、タンク内に異物が入らないように注意してください。

シフトペダル

■ シフトペダルについて

トランスミッションは5段変速でギヤシフトペダルを図のように操作します。
5速リターン式で、ニュートラルは1速と2速の中間にあります。



アドバイス

トランスミッションがニュートラルにあるときは、緑のニュートラルインジケータライトが点灯します。ニュートラルインジケータライトが点灯していても、クラッチレバーはゆっくり操作して確実にニュートラルに入っていることを確認してください。

ギヤ	適応速度（km/h）
1速	0 ～ 40
2速	15 ～ 60
3速	30 ～ 80
4速	40 ～
5速	45 ～

■ シフトペダルの操作方法

トランスミッションは、エンジンの出力に合わせて効率よく運転できるように設計されています。運転するときには、運転の状況に合わせてシフトチェンジしてください。

なお、クラッチの摩耗の原因になるため、半クラッチを車両速度の調節のために使わないでください。

減速時には、エンジンスピードに合わせて、シフトダウンしましょう。

1. サイドスタンドを外します。
2. クラッチレバーを完全に握り、ギヤシフトレバーを操作してギヤを1速に入れ、静かに発進します。

3. 車のスピードに応じてギヤを切り替えます。シフトチェンジは、スロットルグリップを一旦戻して、クラッチレバーを完全に握ってから行います。シフトペダル操作は、つま先で軽く行い、ペダルにコツンと感じるまで確実に行ってください。

⚠警 告

コーナリング中のシフトダウンは、リヤタイヤのスリップや走行の不安定につながるおそれがあります。

コーナリングを始める前に、スピードを落としてシフトダウンしてください。

⚠警 告

あまり高い回転数でシフトダウンを行うと、次の原因になります。

- **強いエンジンブレーキで走行安定性を失ったことによる尻振りなど**
- **エンジン回転が上がりすぎることによるエンジン、トランスミッションの故障**

シフトダウンをするときは、スピードを落としてください。

注 記

エンジンが異常な高温になると、クラッチの切れが悪くなることがあります。

安全な場所で、エンジンを停止して冷やしてください。

注 記

上り坂などで、アクセル操作やクラッチレバー操作でバランスを取るなどして車を停止させようとしないでください。クラッチが過熱し、故障の原因となります。

上り坂などでは、ブレーキを使用してください。

注 記

以下のような操作や走行は、エンジンの損傷の原因となりますので行わないでください。

- **クラッチレバーを完全に握らないシフトチェンジ操作**
- **無理なシフトチェンジ操作**
- **ギヤシフトペダルに足を乗せたままの走行**

アドバイス

- **チェンジ操作はコツンと感じるまで確実に行ってください。**
- **むやみにエンジンスピードを上げないでください。エンジン寿命に悪影響を与えます。**
- **スピードは控えめにしましょう。**
- **走行中に異常を感じたら、すぐにスズキ販売店で点検を受けてください。**

「感情的な走りはいけません 心のブレーキを忘れずに！」

ブレーキレバー

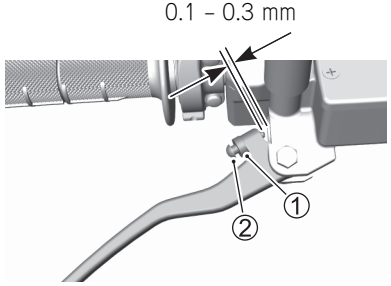
■ ブレーキレバーについて

ブレーキレバーを操作すると、フロントブレーキが作動し、ブレーキランプが点灯します。

■ ブレーキレバーの遊びの調整

次の手順でブレーキレバーの遊びを調整してください。

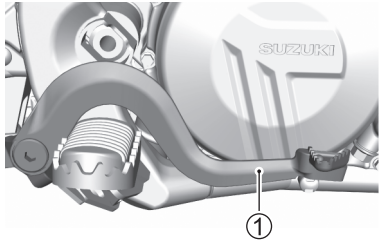
1. ロックナット①をゆるめます。
2. アジャスタスクリュ ② を回して、レバーの遊びが0.1 – 0.3 mmになるように調整します。
3. ロックナット ① を確実に締め付けます。



リヤブレーキペダル

■ リヤブレーキペダルについて

リヤブレーキペダル①を踏み込むとリヤブレーキがかかります。同時にブレーキランプが点灯します。



必要に応じて、次の項目をご確認ください。

- 「リヤブレーキペダルの高さ調整」(☞P.108)
- 「リヤブレーキランプスイッチの点検および調整」(☞P.109)

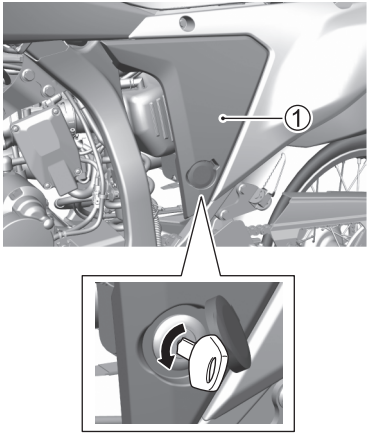
シート

■ シート

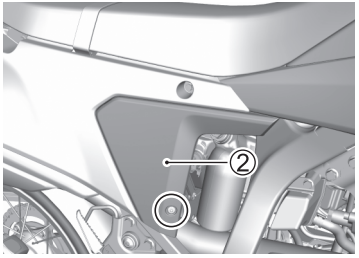
取り外しかた

次の手順でシートおよびフレームカバーを取り外します。

1. 平坦地に駐車します。
2. フロントフレームカバー（左側）①のキャップを開きます。フロントフレームカバーロックにキーを差し込み、左に回してロックを解除します。フロントフレームカバー（左側）を取り外します。

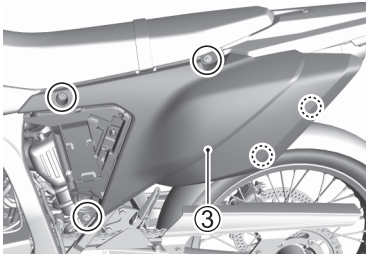


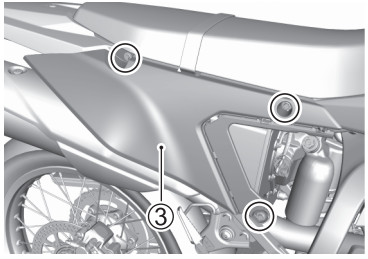
3. フロントフレームカバー（右側）②のファスナを外します。フロントフレームカバー（右側）を取り外します。



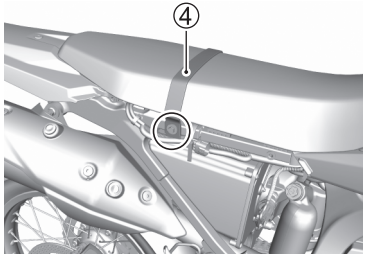
シート

4. サイドフレームカバー（左側）のボルトおよびフックを外します。ボルトを外し、サイドフレームカバー（左右）③ を取り外します。

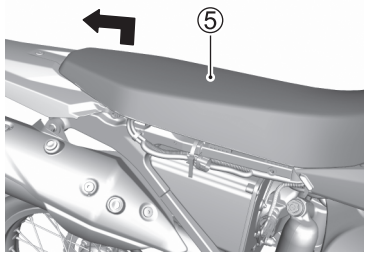




5. ボルト（右側）を外し、シートバンド④ を取り外します。

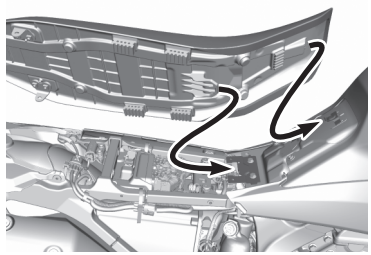


6. シート ⑤ の後部を持ち上げ、後方に引いて取り外します。



取り付けかた

シートおよびフレームカバーの取り付けかたは、取り外しかたの逆の手順で行います。



⚠警 告

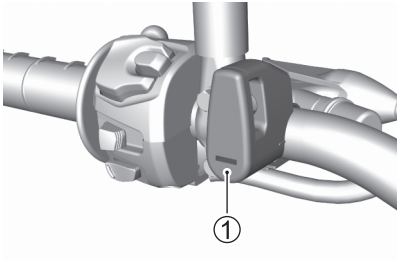
シートが正しく取り付けられていないと、シートが動いて運転に支障をきたすおそれがあります。

シートは正しい位置に取り付け、ボルトを確実に締め付けてください。

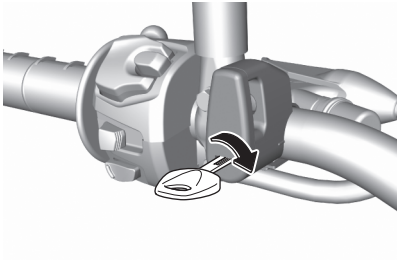
ヘルメットロック

■ ヘルメットロックについて

ヘルメットの盗難抑止のため、左ハンドルに装備しているヘルメットロック①を使いましょう。



1. ハンドルロックをかけます。
2. ヘルメットロックにキーを指し、右に回してロックを開きます。



3. ヘルメットロックにヘルメットの金具をかけ、キーを左に回してロックします。

⚠警 告

ヘルメットロックにヘルメットを付けたまま運転すると、運転の妨げになるため事故の原因になります。また、ヘルメットに損傷を与え保護機能を低下させるおそれがあります。

ヘルメットロックにヘルメットをつけたまま走行しないでください。

アドバイス

- **ロックしたヘルメットは、平面のあるフューエルタンク上にのせておくことをおすすめします。**
- **ヘルメットによっては、ヘルメットの形状やあごひもの長さにより、ヘルメットロックに取り付けできないことがあります。**

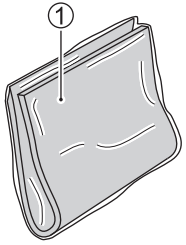
書類入れ

■ 書類入れについて

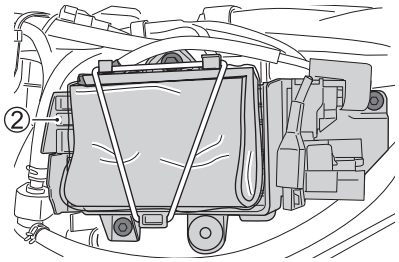
サイドフレームカバー（左側）を外すとバッテリカバーにメンテナンスノートが固定されています。サイドフレームカバー（左側）の取り外しの詳細は「シート」(☞P.65)を参照してください。

メンテナンスノートは、以下の手順で車両に搭載し保管してください。

1. メンテナンスノート ① をビニール袋に入れ、2 つ折りにします。



2. 次のようにバッテリカバー ② にゴムバンドで固定します。



サスペンション

■ サスペンションについて

フロントフォークおよびリヤショックアブソーバの標準セッティングは、お車のスピードや荷重の変化などの多様なライディング条件に対応できるように設定されています。

なお、サスペンションセッティングは、好みの位置に微調整できます。

注 記

無理にアジャスタを回すとサスペンションが損傷するおそれがあります。

限界を超えてアジャスタを回さないでください。

■ フロントフォーク

⚠警 告

左右で異なるサスペンションセッティングは、操縦性を低下させ，走行安定性を損なうことがあります。

左右のフロントフォークは同一のセッティングに調整してください。

注 記

フロントフォークを汚れたまま調整すると、アジャスタに砂がかみ込んだり、オイルシールの損傷によりオイル漏れの原因になったりします。

調整前に洗浄し、砂などの汚れを十分に落としてください。

減衰力の調整

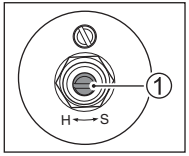
伸側および圧側の減衰力は、それぞれのアジャスタを回すことで個別に調整できます。

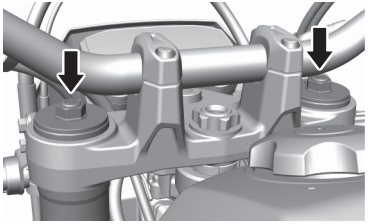
- 伸側減衰力アジャスタ ① は、フロントフォークの上部に配置されています。
- 圧側減衰力アジャスタ ② は、フロントフォークの底部に配置されています。

減衰力の調整は，まず標準セッティングにし、その後アジャスタで好みの位置に調整します。

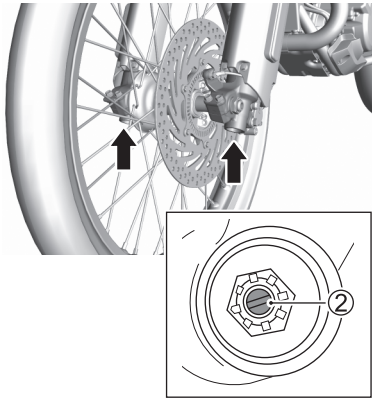
アドバイス

- **フロントフォークのオイル漏れが発生するため、アジャスタベース③をゆるめないでください。(DR-Z4SM)**
- **左右のフロントフォークとも、同じ位置に調整してください。**

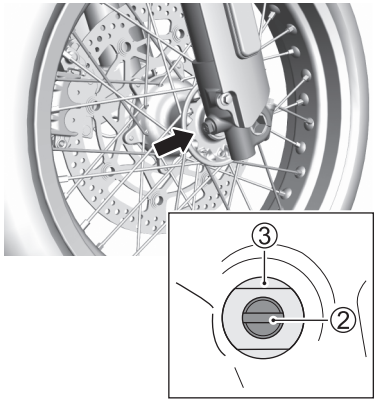




サスペンション



(DR-Z4S)



(DR-Z4SM)

＜伸側減衰力標準セッティング＞

標準位置は、アジャスタを時計回りに止まるまで回した位置から、反時計回りに13 クリック (DR-Z4S) / 15 クリック (DR-Z4SM)戻した位置です。

- 標準位置からアジャスタを時計回りに回すと減衰力が強くなります。
- 標準位置からアジャスタを反時計回りに回すと減衰力が弱くなります。

アジャスタは最も強い設定から最も弱い設定へ最大21クリックで調整してください。

減衰力の調整は、1クリックずつ調整を行って、最適な設定を見つけてください。

<圧側減衰力標準セッティング>
標準位置は、アジャスタを時計回りに止まるまで回した位置から、反時計回りに8クリック(DR-Z4S) / 1.5回転(DR-Z4SM)戻した位置です。

- 標準位置からアジャスタを時計回りに回すと減衰力が強くなります。
- 標準位置からアジャスタを反時計回りに回すと減衰力が弱くなります。

アジャスタは最も強い設定から最も弱い設定へ最大19クリック(DR-Z4S) / 3回転(DR-Z4SM)で調整してください。

減衰力の調整は、1クリック(DR-Z4S) / 1/8回転(DR-Z4SM)ずつ調整を行って、最適な設定を見つけてください。

<空気圧の調整>

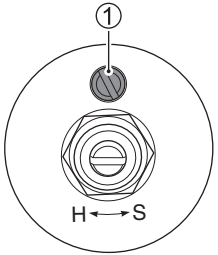
1. 車両をサービススタンド等で支え、フロントホイールを地面から浮かせてください。

アドバイス

フロントホイールを地面から浮かせる方法については、スズキ販売店にご相談ください。

2. エアブリーダバルブ (左右)① を取り外して、フロントフォークの内圧を大気圧にします。
3. エアブリーダバルブ (左右) を取り付けます。

標準空気圧：
0 kPa (0 kgf/cm^2, 0 psi)



サスペンション

■ リヤサスペンション

⚠警 告



リヤショックアブソーバには、高圧の窒素ガスが封入されています。不適切な取扱いをすると、爆発や破裂が起こるおそれがあります。

- **火や熱から遠ざけてください。**
- **取扱説明書をよくお読みください。**

アドバイス

リヤショックアブソーバを廃棄するときは、スズキ販売店にご相談ください。

注 記

無理にアジャスタを回すとサスペンションが損傷するおそれがあります。

限界を超えてアジャスタを回さないでください。

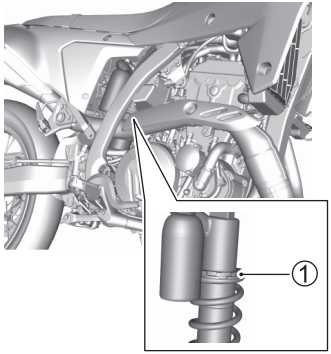
注 記

リヤショックアブソーバを汚れたまま調整すると、アジャスタに砂がかみ込んだり、オイルシールの損傷によるオイル漏れの原因になったります。

調整前に洗浄し、砂などの汚れを十分に落としてください。

スプリングの調整

アジャスタリング①の位置を調整します。この作業には特殊工具が必要になりますので、調整はスズキ販売店にご相談ください。



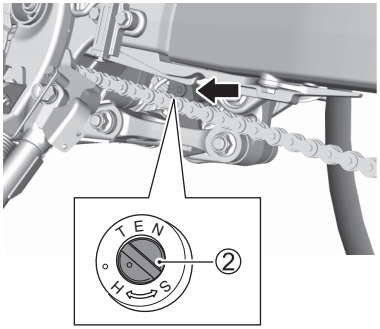
減衰力の調整

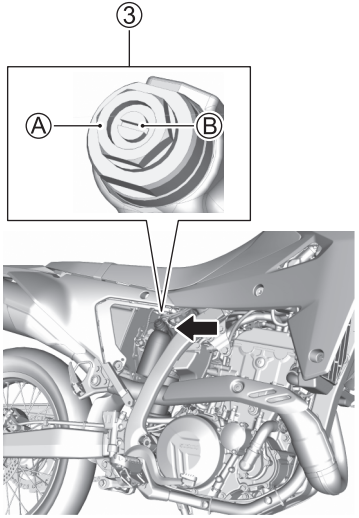
伸側および圧側の減衰力は、それぞれのアジャスタを回すことで個別に調整できます。

- 伸側減衰力アジャスタ②は、リヤサスペンションの底部に配置されています。
- 圧側減衰力アジャスタ③は、リヤサスペンションの上部に配置されています。

圧側減衰力アジャスタの調整の際は、フロントフレームカバー（右側）を取り外してください。詳細は「シート」（☞P.65）を参照してください。

減衰力の調整は，まず標準セッティングにし、その後アジャスタで好みの位置に調整します。





Ⓐ 高速
Ⓑ 低速

サスペンション

＜伸側減衰力標準セッティング＞

標準位置は、アジャスタを時計回りに止まるまで回した位置から、反時計回りに14クリック（DR-Z4S）/ 15 クリック（DR-Z4SM)戻し、側近の2つのポンチマークを合わせます。
ポンチマークが合わないときは、アジャスタを微調整して合わせます。

- 標準位置からアジャスタを時計回りに回すと減衰力が強くなります。
- 標準位置からアジャスタを反時計回りに回すと減衰力が弱くなります。

アジャスタは最も強い位置から反時計回りに30クリックまでの範囲で調整してください。

減衰力の調整は、1クリックずつ徐々に調整を行って、最適な設定を見つけてください。

＜圧側(高速)減衰力標準セッティング＞

標準位置は、アジャスタを時計回りに止まるまで回した位置から、反時計回りに1回転戻し、側近の2つのポンチマークを合わせます。
ポンチマークが合わないときは、アジャスタを微調整して合わせます。

- 標準位置からアジャスタを時計回りに回すと減衰力が強くなります。
- 標準位置からアジャスタを反時計回りに回すと減衰力が弱くなります。

アジャスタは最も強い位置から反時計回りに2回転までの範囲で調整してください。

減衰力の調整は、徐々に調整を行って、最適な設定を見つけてください。

＜圧側(低速)減衰力標準セッティング＞

標準位置は、アジャスタを時計回りに止まるまで回した位置から、反時計回りに10クリック（DR-Z4S）/ 15 クリック（DR-Z4SM)戻し、側近の2つのポンチマークを合わせます。
ポンチマークが合わないときは、アジャスタを微調整して合わせます。

- 標準位置からアジャスタを時計回りに回すと減衰力が強くなります。
- 標準位置からアジャスタを反時計回りに回すと減衰力が弱くなります。

アジャスタは最も強い位置から反時計回りに18クリックまでの範囲で調整してください。

減衰力の調整は、1クリックずつ徐々に調整を行って、最適な設定を見つけてください。

メ モ

点検と整備

■ 概要

定期的なお車の点検や整備は、安全に運転するために、またお車を長持ちさせるためにとても大切です。ここでは、通常行われることが多い簡単な点検、整備の方法を説明しています。

お車をしばらく使用しないときにも、定期点検は実施してください。お車を長期間休ませた後に使い始めるときは、入念に点検してください。
点検の種類やタイミングについては、この章の「日常点検と定期点検」（☞P.77）の項目をご参照ください。

⚠警 告

日常点検や定期点検を怠ると、事故や故障の原因になるおそれがあります。

常にお車を良い状態に保ってください。もしご自身での整備が難しい場合には、スズキ販売店にご相談ください。

⚠警 告

専門的な知識が無い状態で、技量を超えた整備を行うことは、事故や故障の原因になるおそれがあります。

整備は、安全のためご自身の知識・技量の範囲で行ってください。難しいことはスズキ販売店にご相談ください。

⚠警 告

排気ガスには、無色・無臭の一酸化炭素や有毒ガスが含まれています。

一酸化炭素を吸うと、最悪の場合、死亡や重大な損害を生じるおそれがありますので、屋内や換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。

⚠警 告

走行して点検する場合は、周囲の交通事情に十分注意してください。

通常より速度を落とし、交通量の少ない場所で行ってください。

⚠警 告

エンジンがかかっている状態での点検は、エンジンの可動部品に手や服がはさまれ、重大なけがを引き起こすおそれがあるため危険です。

ランプ、エンジンストップスイッチ、スロットルの点検以外の点検を行うときは、エンジンを止めてください。

⚠警 告

ガソリンや可燃性のある油脂類がありますので、点検、整備を行うときは火気厳禁です。

整備中は、火気を近づけたり、たばこを吸わないでください。

▲警 告

不安定な場所での整備は、作業中に車両が倒れる原因になります。

整備は、平坦で足場のしっかりした場所で行ってください。

▲注 意

エンジン回転中および停止後、しばらくの間は、マフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。

マフラやエンジンの周辺部品の整備は、素手で触れても熱くない温度まで下がってから行ってください。

注 記

メインスイッチがONの状態で電装部品の整備を行うと、電気回路がショートしたときに電装部品に損傷を与えるおそれがあります。

電装部品の整備を行うときには、メインスイッチをOFFにしてキーを抜いてください。

注 記

品質の悪い部品を使うと、お車の寿命を縮めるおそれがあります。

部品を交換するときは、スズキ純正部品のご使用をおすすめします。

アドバイス

一般的な使われ方より激しい状態(シビアコンディション)でお車をご使用される場合には、部品の劣化が通常より著しく進行することがありますので、通常より早めに点検整備を行ってください。シビアコンディションに該当する条件については、お車に付属するメンテナンスノートの[シビアコンディション条件]をご参照ください。

アドバイス

油脂類の廃液は、法令で適切な処理を行うことが義務づけられています。廃液の処理はスズキ販売店にご相談ください。

日常点検と定期点検

■ 概要

お車を快適に使用し、事故を未然に防ぐために道路運送車両法で日常点検と定期点検を行うことが義務づけられています。必ず実施してください。

■ 点検の種類

＜日常点検＞

日常の車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検です。
次の項目について点検してください。

日常点検と定期点検

ブレーキ
- ブレーキレバー、ブレーキペダルの遊び
- 効き具合
- ブレーキ液の量

タイヤ
- 空気圧
- 亀裂、損傷、異物、異常摩耗
- 溝の深さ

エンジン
- エンジンオイルの量
- 冷却水の量
- かかり具合、異音
- 低速、加速の状態

チェーン
※ゆるみ

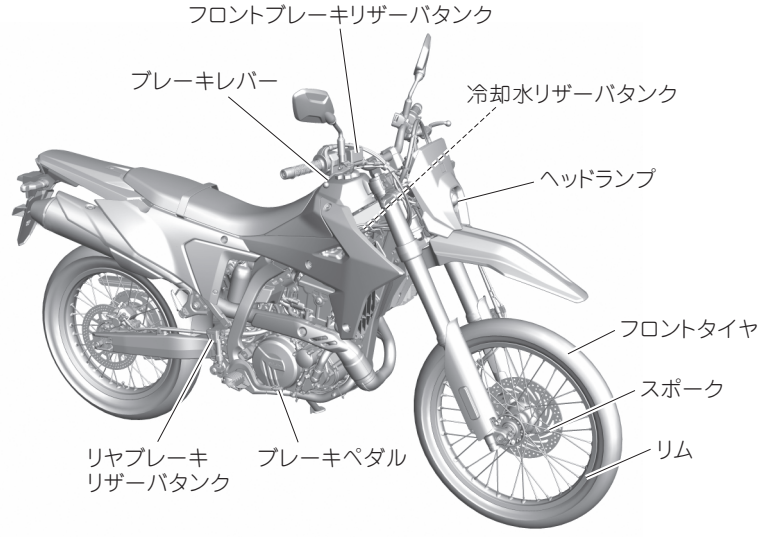
ホイール
- リムの損傷
- スポークの張り具合

灯火装置、方向指示器（ランプ類）

運行において異常が認められた箇所

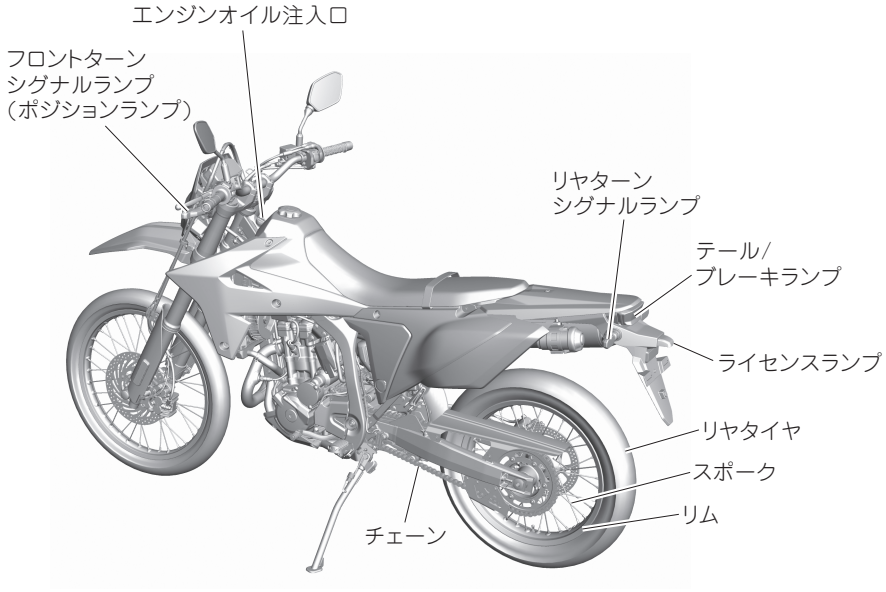
※印の点検は、メーカー指定点検を示します。

＜日常点検・部品配置＞



（図：DR-Z4S）

- - - 部は見えない部分を示します。



（図：DR-Z4S）

＜定期点検＞

車を使用する人自身の責任において定期的に行う点検整備です。

- 定期点検結果は、別冊「メンテナンスノート」に記録する必要があります。ご自身で点検できない項目については、スズキ販売店で点検を受けて記録してください。
- 点検時期や点検内容などについて、詳しくは別冊「メンテナンスノート」の“日常点検の方法”、“定期点検の解説”をご覧ください。
- 初期（1か月）点検はお買いあげいただいたスズキ販売店が無料で実施します。ただし他店では有料となります。また油脂代、部品代およびその交換工賃は有料です。

＜継続検査（車検）＞

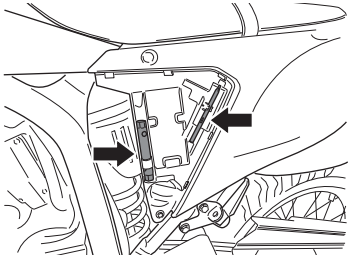
小型自動車（251 cm^3以上）は、国で定める継続検査を受けなければ使用できません。期間満了前に必ずお受けください。

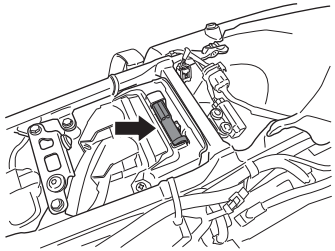
サービス工具

■ サービス工具

サービス工具は、サイドフレームカバー（左側）およびシート下に収納されています。

サイドフレームカバー（左側）およびシートの取り外しの詳細は「シート」（☞P.65）を参照してください。





注油

■ 注油のポイント

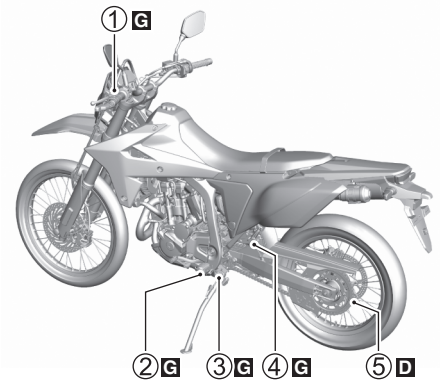
適切な注油は、スムーズな操作や各部品の寿命をのばすためだけでなく、安全に運転するためにも重要です。悪路を長時間走行したとき、雨で濡れたとき、または洗車した後には、注油してください。

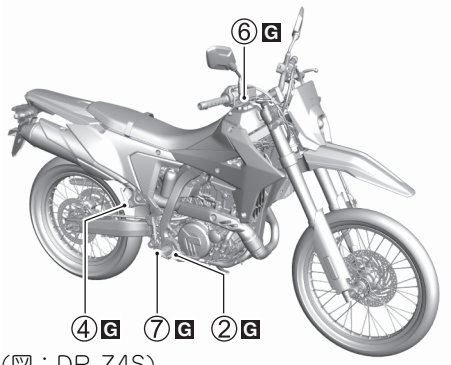
注 記

スイッチへの注油は、故障の原因となります。

グリースを塗ったり、注油をしないでください。

次の箇所に注油してください。





（図：DR-Z4S）

G：グリース
D：ドライブチェーンオイル

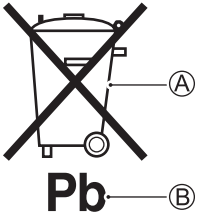
① クラッチレバーピボット
② フットレストピボット
③ サイドスタンドピボットおよびスプリングフック
④ 後席用フットレストピボット
⑤ ドライブチェーン
⑥ ブレーキレバーピボット
⑦ ブレーキペダルピボット

バッテリ

■ 概要

この車は密閉式のメンテナンスフリーバッテリを使用しています。バッテリ液の点検、補給は必要ありませんが、スズキ販売店で定期的にバッテリの充電状態をチェックしてください。

バッテリを処分するときは、それぞれの地域の法律に基づいて処理してください。バッテリラベルにシンボルマークⒶが表示されているバッテリは家庭用のごみとは分けて処分してください。鉛の含有率が0.004％を超えるバッテリには化学記号“Pb”Ⓑが表示されています。



使用済みのバッテリを適切に処分したり、リサイクルすることで環境や人体への悪影響を防ぐことができます。資源の節約のためにもリサイクルすることをおすすめします。使用済みのバッテリの処分またはリサイクルについて、詳しくはスズキ販売店にご相談ください。

⚠警 告

バッテリの電極、端子、その他関連する部品には、鉛や鉛化合物が含まれています。

鉛が体内に入ると健康を害しますので、鉛が含まれる部品に触れた後は手を洗ってください。

⚠警 告

バッテリからは、引火性の有るガスが発生します。

火気を近づけたり、喫煙をしたりしないでください。

⚠警 告

バッテリには、希硫酸が含まれています。希硫酸が身体に付着すると、失明や重いやけどを負うおそれがあります。

バッテリを取り外すときに傾けたりしないようにしてください。バッテリの近くで作業するときは、目を守るための適切な保護具や手袋を使用してください。もし目に入った場合は、すぐに多量の水で15分以上洗い医師の診察を受けてください。万一飲み込んだ場合は、すぐに多量の水を飲んで医師の診察を受けてください。皮膚や衣服に付いた場合は、衣服を脱ぎ多量の水で洗い流してください。また、保管するときは、子供の手の届くところに置かないでください。

⚠警 告

乾いた布でバッテリをふくと、静電気が発生して引火するおそれがあります。

バッテリをふくときは、静電気を防ぐために湿らせた布でふいてください。

注 記

長時間のアイドリングや不必要な空ぶかしはエンジン部品、触媒装置、電装部品に悪影響を与えます。また、燃料の無駄使いになるだけでなく、オーバーヒートの原因にもなります。

バッテリ充電のための長時間のアイドリングや空ぶかしは行わないでください。

アドバイス

補充電については、スズキ販売店にご相談ください。ご自身で補充電される場合は、メンテナンスフリーバッテリに対応した充電器を使用してください。

アドバイス

充電するときに、電流、電圧、充電時間が不適切な場合は、バッテリの寿命を短くするおそれがあります。不明なときは、スズキ販売店にご相談ください。

アドバイス

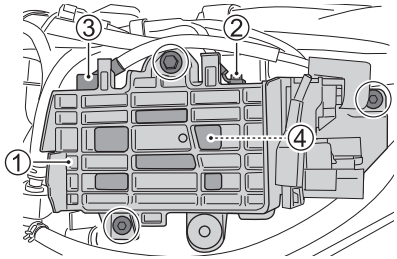
- バッテリを交換する場合は、同タイプのMFバッテリを選んでください
- 長期間、お車をご使用にならない場合は、１か月毎に、充電してください。

バッテリ

■ バッテリの取り外し

次の手順でバッテリを取り外します。

1. 平坦地に駐車します。
2. メインスイッチを**OFF**にします。
3. サイドフレームカバー（左側）およびシートを取り外します。☞「シート」(P.65)参照
4. ボルトを外し、バッテリカバー①を取り外します。
5. (−)側バッテリコード②を外します。
6. (+)側バッテリコード③を外します。
7. バッテリ④を取り外します。



8. ターミナル部に白い粉が付いているときは、ぬるま湯を注いでふきます。腐食が著しいときは、ワイヤーブラシかサンドペーパで磨いてください。

アドバイス

- **バッテリコードを外すときは、必ずメインスイッチをOFFにし、マイナス(−)側を先に外してください。取り付けるときはプラス(+)側を先に取り付けます。**
- **ターミナル部にゆるみが生じないように締め付け、プラス(+)側ターミナルカバーを確実に取り付けてください。**
- **バッテリを交換するときは、スズキ販売店にご相談ください。**

■ バッテリの取り付け

次の手順でバッテリを取り付けます。

1. 端子部を清掃後、薄くグリースを塗り、取り外しの逆の手順でバッテリを取り付けます。
2. 端子を確実につなぎ、プラス(+)側端子③にターミナルカバーを取り付けてください。

注記

バッテリのリード線のプラス(+)とマイナス(−)を逆に接続すると、充電系統およびバッテリが損傷する原因になります。

接続するときは、赤のリード線はプラス(+)端子に、黒（または黒に白のストライプ）線はマイナス(−)端子に接続してください。

スパークプラグ

■ スパークプラグについて

スパークプラグの点検や交換はスズキ販売店にご相談ください。

エアクリーナ

■ エアクリーナエレメントの点検について

1年毎に点検してください。ホコリが多い場所を走行する機会が多い場合は、6か月毎に点検してください。

アドバイス

エアクリーナエレメントの点検・交換について、ご自身での整備が難しい場合は、スズキ販売店にご相談ください。

エアクリーナエレメントが詰まると吸気抵抗が増え、結果として出力が低下し燃料消費が増大します。指定した時期に整備が必要です。ホコリ、湿気、泥の多い条件で運転する場合は通常よりも頻繁にエアクリーナを点検する必要があります。
次の手順でエアクリーナエレメントを取り外し、点検してください。

⚠警 告

エアクリーナエレメントを正しい位置に取り付けないでエンジンをかけると危険です。エアクリーナエレメントが付いていないとエンジンからのバックファイアがエアクリーナケースに吹き返されるおそれがあります。また、ホコリがエンジンに侵入し、重大なエンジンの損傷を招くおそれがあります。

エンジンをかけるときは必ずエアクリーナエレメントを正しい位置に取り付けてください。

エアクリーナ

注 記

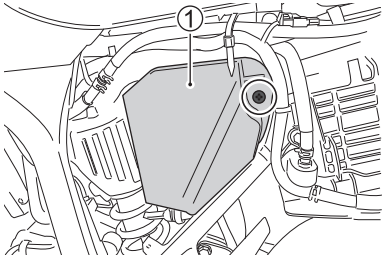
ホコリが多い、濡れている、または泥が多い環境で使用する場合、エアクリーナエレメントを頻繁に点検しないと車両故障につながるおそれがあります。このような状況でエアクリーナが詰まるとエンジン損傷の原因にもなります。

過酷な環境で走行した後は、必ずエアクリーナエレメントを点検し、必要に応じて交換してください。エアクリーナケースに水が入った場合は、直ちにエアクリーナエレメントの点検とケース内の清掃を行ってください。

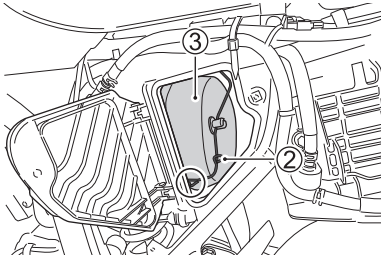
■ エアクリーナエレメント

取り外しかた

1. 平坦地に駐車します。
2. サイドフレームカバー（左側）を取り外します。☞「シート」(P.65)参照
3. スクリュを外し、リッド ① を開きます。

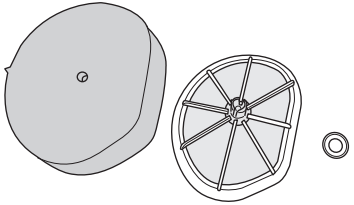


4. フック②を外し、エアクリーナエレメント③を取り外します。



エアクリーナエレメントの点検

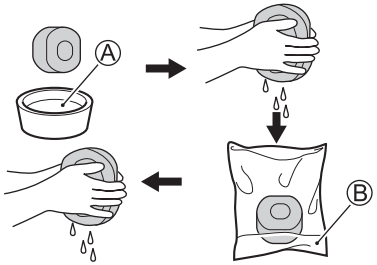
1. エアクリーナエレメントからエアクリーナフレームを取り外します。
2. エアクリーナエレメントを目視により点検します。汚れ、詰まりがある場合は清掃します。



エアクリーナエレメントの清掃

1. エアクリーナエレメントをきれいな灯油Ⓐに浸して洗浄します。
2. 手のひらでしぼって、乾燥させます。このとき、ひねったり、ねじったりしないでください。
3. きれいなオイルⒷを浸透させます。

   推奨オイル：
   SAE 10W-40 相当のエンジンオイル
4. 余分なオイルをしぼり出します。



⚠警 告

新しいオイル、使用済みのオイルおよび溶剤は有害です。子供やペットがこれらを飲み込むことによって、傷害を負う可能性があります。使用済みのエンジンオイルに繰り返し触れたり、長時間触れると皮膚がんになるおそれがあります。使用済みのオイルや溶剤に短時間接触すると、皮膚に炎症を起こすおそれがあります。

- **新しいオイル、使用済みのオイルおよび溶剤は、子供やペットに近づけないようにしてください。**
- **長袖の上着および防水性の手袋を着用してください。**
- **オイルや溶剤が皮膚に付いたら石鹸で洗ってください。**

アドバイス

油脂類の廃液は、法令で適切な処理を行うことが義務づけられています。廃液の処理はスズキ販売店にご相談ください。

エアクリーナ

取り付けかた

取り付けかたは取り外しかたの逆の手順で行ってください。

注 記

エアクリーナエレメントが破損していると、エンジンに汚れが入り、エンジンが損傷するおそれがあります。

エアクリーナエレメントが破損している場合は、新品のエアクリーナエレメントと交換してください。取り付ける前にエアクリーナエレメントに裂け目がないか確認してください。

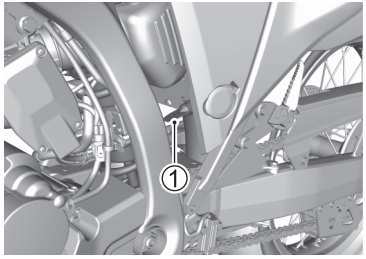
注 記

エアクリーナエレメントの取り付け位置が正しくないと、汚れがエアクリーナエレメントをすり抜け、エンジン損傷の原因となります。

エアクリーナエレメントを正しく取り付けてください。

■ エアクリーナドレンチューブの清掃

1年毎に、エアクリーナケースの下に取り付けられているエアクリーナドレンチューブ①に、水やオイルがたまっていないかを点検してください。



＜エアクリーナドレンチューブの点検、清掃＞

1. エアクリーナドレンチューブ①に、水やオイルがたまっていないかを点検します。
2. 汚れや水がたまっている場合は、エアクリーナドレンチューブを外し、汚れや水を取り除きます。
3. エアクリーナドレンチューブを確実に取り付けます。

エンジンオイル

■ 概要

エンジンの寿命は、オイル量と品質によって大きく左右されます。また、日頃のオイル量の点検と定期的な交換は、お車の性能を引き出すうえで非常に大切ですので、忘れずに行いましょう。

エンジンオイル交換時期：

初回1か月または1,000 km
以降6,000 kmまたは1年ごと

オイルフィルタ交換時期：

初回1か月または1,000 km
以降18,000 kmごと

⚠警 告

エンジンオイルの取扱いを誤ると、お体やお車に悪影響をおよぼします。

取扱う前に、容器に記載されている注意文をよく読んで従ってください。

■ エンジンオイルの選びかた

スズキ純正エンジンオイルまたは同等のエンジンオイルの使用をおすすめします。

＜スズキ純正エンジンオイル＞

規格 / オイル	SAE	JASO
エクスター R9000 MA2	10W-40	MA2
エクスター R7000 MA2	10W-40	MA2
エクスター R5000 MA2	10W-40	MA2

＜同等のエンジンオイル＞

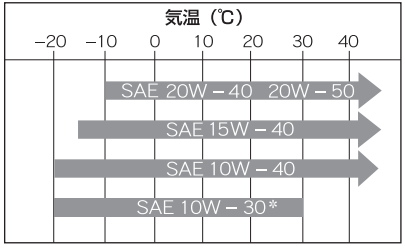
同等のエンジンオイルとは次の規格を満足したものです。

SAE	API	JASO
10W-40	SJ, SL, SM, SN	MA (MA1, MA2)

SAE　：米国自動車技術者協会規格
API　：米国石油協会規格
JASO：日本自動車技術会規格

＜SAE粘度表＞

SAE10W-40のオイルが入手できない場合は、次の表を参考に使用環境に合うオイルを選んでください。



＊APIがSJ、SLのもの

注 記

銘柄やグレードの違うオイルを混ぜて使用すると、変質して故障の原因となることがあります。

オイルを混ぜて使ったり、低品質オイルを使用したりしないでください。

エンジンオイル

＜摩擦低減剤＞

摩擦低減剤は、不具合の原因になるため使用しないでください。

API SJ, SL, SM, SN



推奨します

API SJ, SL, SM



API SN



推奨しません

注 記

クラッチは、エンジンオイルに浸されていますので、摩擦低減剤を含むエンジンオイルはクラッチのすべりなどの原因となる場合があります。

摩擦低減剤を必要以上に多く含むエンジンオイルは使用しないでください。また摩擦を低減する添加物は加えないでください。

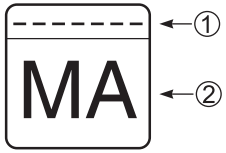
＜JASO T903＞

JASO T903は、4サイクル二輪車のエンジンオイルを選ぶ際の指針となる規格です。

二輪車は四輪車と異なりエンジンオイルがクラッチやトランスミッションも潤滑しています。JASO T903はこれらクラッチやトランスミッションが要求するオイル性能について規定しています。

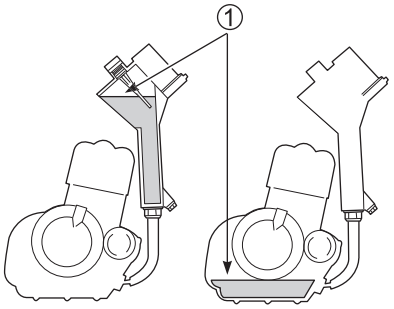
MA（MA1、MA2）、MBの分類があり、本規格に適合するエンジンオイルの容器には、次の表示があります。

例：MAのとき



① オイル販売会社の整理番号
② 性能分類の表示MA分類を示す

■ エンジンオイル量の点検



エンジンの始動直後　エンジンを1週間、停止した場合

① エンジンオイル量

エンジンが作動している間、エンジンオイルはエンジンからエンジンオイルタンクに送り込まれます。この車両のエンジンオイルタンクはフレームの上部にあります。エンジンを作動せず放置すると、フレームオイルタンク内のエンジンオイルが減少します。フレームオイルタンク内のエンジンオイルがクランクケースに滴り落ちるためです。エンジンオイル量を確認するには、次の手順で行ってください。

1. 平坦地に駐車し、サイドスタンドを立てます。
2. エンジンを約6分間アイドリング運転します。

アドバイス

アイドリング運転中は、スロットルグリップを開けてエンジン回転数を上げないでください。

3. エンジンを停止し、約3分間待ちます。
4. エンジンオイル注入口キャップⒶ（オイルレベルゲージ）を取り外します。
5. きれいな布でオイルレベルゲージに付着したエンジンオイルをふき取ります。
6. 車体を垂直にして、オイルレベルゲージをねじ込まず差し込みます。
7. オイルレベルゲージを抜いてエンジンオイル量を確認してください。

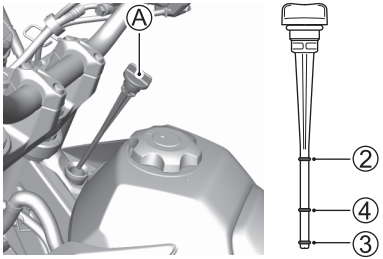
エンジンオイル量がF(アッパレベル)②以上またはL(ロアレベル)③以下の場合は、オイルレベルゲージのM(ミドルレベル)④になるようにエンジンオイル量を調整します。

- エンジンオイル量がL(ロアレベル)③以下の場合は、エンジンオイルを補充してください。
- エンジンオイル量がF(アッパレベル)②以上の場合は、エンジンオイルを抜くなどして調整してください。エンジンオイルを抜く方法については、スズキ販売店にご相談ください。

エンジンオイル

アドバイス

エンジンオイルの点検、補給は走行する前のエンジンが冷えた状態で行ってください。エンジンが熱いときは、正確なオイルレベルが測定できません。



Ⓐ エンジンオイル注入口キャップ（オイルレベルゲージ）

⚠注 意

エンジン回転中および停止後、しばらくの間は、エキゾーストパイプやマフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。

周辺部品の整備は、素手で触れても熱くない温度まで下がってから行ってください。

注 記

エンジンオイルが多すぎても、少なすぎてもエンジンに悪影響を与えます。

点検するときは車体を水平な場所に停めてください。車を使用する際には毎回オイルレベルゲージでエンジンオイル油面を点検してください。オイル油面はM(ミドルレベル)にあることを確認してください。

アドバイス

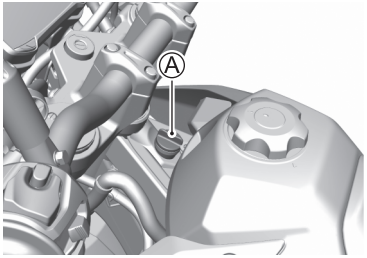
オイル量点検前に、車体をゆすると適切な量が確認できないおそれがあります。

■ エンジンオイルの補給

次の手順でエンジンオイルを補給します。

1. 平坦地に駐車し、サイドスタンドを立てます。
2. エンジンを約6分間アイドリング運転します。
3. エンジンを停止し、約3分間待ちます。
4. エンジンオイル注入口キャップⒶ（オイルレベルゲージ）を取り外します。
5. きれいな布でオイルレベルゲージに付着したエンジンオイルをふき取ります。
6. 車体を垂直にして、オイルレベルゲージのM(ミドルレベル)に油面がくるようにエンジンオイルを補充します。

7. エンジンオイル注入口キャップⒶ（オイルレベルゲージ）を確実に取り付けます。



⚠警 告

エンジンオイルは有害ですので、幼児やペットが誤って飲み込むと身体に重大な影響を与えます。

新しいオイル、エンジンから抜いたオイル、オイルフィルタは、幼児やペットが触れない場所に置いてください。

⚠警 告

エンジンオイルに繰り返し触れたり、長時間触れたりすると皮膚がんの原因になるおそれがありますので注意してください。

オイル交換をする際には、オイルに触れるのを避けるために長袖や耐油性の手袋を着用してください。もし、オイルが皮膚に付いたときは石鹸で十分に洗い、衣類やウエスにオイルがついた場合は洗濯してください。また、使用済みのオイルやオイルフィルタは、リサイクルするか適切な方法で処分してください。

注 記

オイル注入口からゴミなどが入るとエンジンが損傷するおそれがあります。

作業前にオイルジョッキの内部等にホコリや泥、異物等が付着していないことを確認し、オイル注入口から入らないようにしてください。

アドバイス

オイルをこぼしたときは、完全にふき取ってください。

冷却水

■ 概要

冷却水は定期的な交換が必要ですので、メンテナンスノートに従って適切な時期に交換してください。冷却水の交換は、スズキ販売店にご相談ください。

■ 指定冷却水

冷却水はエンジンを冷やすためだけでなく、エンジン内部のサビを防ぐために循環しています。また、寒冷地でも凍らないように不凍液を使用していますので、お客様の地域が寒冷地でなくても、必ず冷却水をご使用ください。

次の冷却水をご使用ください。

指定冷却水：スズキスーパーロングライフクーラント（青）

冷却水容量：1,420 ml

スズキスーパーロングライフクーラントは水で希釈する必要はありません。

⚠警 告

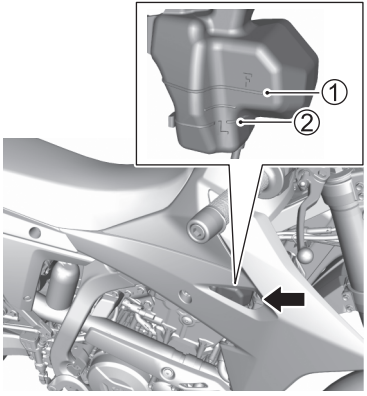
冷却水の取扱いを誤ると、お体やお車に悪影響をおよぼします。

取扱う前に、容器に記載されている注意文をよく読んで従ってください。ご不明な点は、スズキ販売店にご相談ください。

■ 冷却水の量の点検

エンジンが冷えているときに、次の手順で点検してください。

1. 平坦地に駐車し、サイドスタンドを立てます。
2. 車体を垂直にして、冷却水がリザーバタンクのF(Full)①とL(Low)②の間にあるかを点検します。



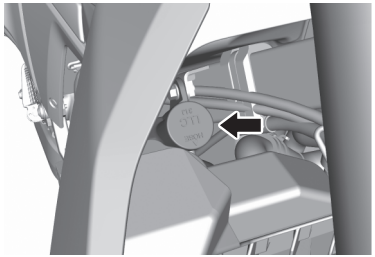
アドバイス

- **冷却水の減りが著しいときはラジエータ本体、ホースなどからの漏れが考えられます。スズキ販売店で点検を受けてください。**
- **リザーバタンクが空の場合は、ラジエータ内の冷却水も不足している可能性があります。**
- **冷却水の交換はスズキ販売店にご相談ください。**

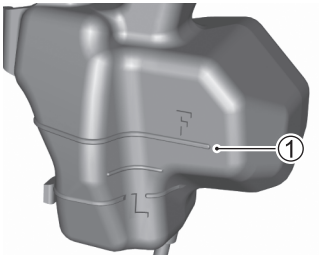
■ 冷却水の補給

次の手順で冷却水を補給します。

1. 平坦地に駐車し、サイドスタンドを立てます。
2. リザーバタンクキャップを外します。



3. F(Full)①まで冷却水を補充します。適切な冷却水については、「指定冷却水」(☞P.94) を参照してください。
4. リザーバタンクキャップの矢印をリザーバタンクホース側に向けて取り付けます。



アドバイス

- **スズキスーパーロングライフクーラントは、水で希釈する必要はありません。**
- **指定冷却水を使用してください。**

冷却水

⚠警 告

冷却水は有毒のため、液を飲んだり蒸気を吸い込んだりすると身体に重大な影響を与えます。

冷却水や不凍液は、絶対に飲まないようにしてください。もし飲み込んだ場合は、無理に吐かずにすぐに医師に連絡してください。また、蒸気を吸い込んだ場合は、蒸気を吐き出し、きれいな空気を吸ってください。目に入った場合は、すぐに水で洗い流し、医師の診察を受けてください。冷却水を取扱った後は、十分に手を洗ってください。冷却水を保管するときは、幼児やペットが触れない場所に置いてください。

⚠警 告

エンジンが熱いときにラジエータキャップを外すと、冷却水が噴き出し、やけどを負うおそれがあります。

冷却水の補給はリザーバタンクキャップから行い、ラジエータキャップは外さないでください。

⚠注 意

F(Full)レベルを超えて補充するとエンジンが熱くなったときに冷却水がリザーバタンクからあふれ出るおそれがあります。

冷却水の補充はF(Full)レベル以上に入れないでください。

注 記

冷却水はお車の塗装面を痛めるおそれがあります。

こぼさないように注意してください。こぼれたときは、すぐにふき取ってください。

アドバイス

水だけを補給するとエンジンクーラントは希釈され効果が低下します。必ず、指定の冷却水を補給してください。

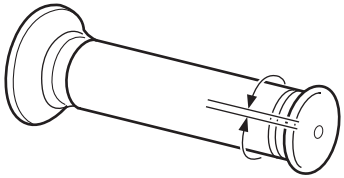
■ 冷却装置の点検

ラジエータ本体やホースにひびや損傷、冷却水の漏れがないかを点検してください。もし不具合が見つかった場合は、スズキ販売店にご相談ください。

スロットルケーブル

■ スロットルケーブルの点検

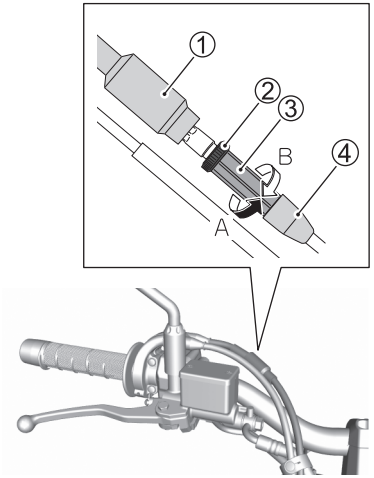
メインスイッチをOFFにした状態で、スロットルグリップを操作し、スムーズに操作できるか、ハンドルを左右いっぱいに切った状態でも操作が重くないか、傷や損傷が無いか点検します。また、スロットルグリップを操作し、スロットルケーブルの遊びの量が、2～4 mmの範囲内にあるかを確認します。遊びの量が範囲から外れている場合は、調整してください。



2 ～ 4 mm

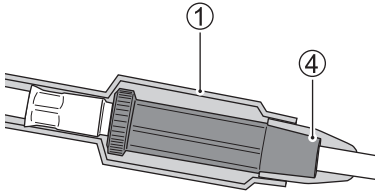
■ スロットルケーブルの遊びの調整

1. アジャスタにより遊びを調整します。スロットルケーブルブーツ大①をずらし、ロックナット②をゆるめます。アジャスタ③をAのように回すと遊びが多く、Bのように回すと遊びが少なくなります。



スロットルケーブル

2. 調整後は、スロットルケーブルブーツ小④を奥までしっかりと差し込んだ状態で、スロットルケーブルブーツ大①の先端をかぶせます。



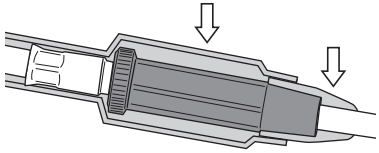
⚠警 告

スロットルケーブルの遊びが不適切な場合、ハンドルバーを動かした際にエンジン回転数が突然上昇するおそれがあります。これにより操縦不能となり事故につながるおそれがあります。

ハンドルの動きによってエンジン回転数が上昇しないようにスロットルケーブルの遊びを調整してください。

■ スロットルケーブルブーツ

スロットルケーブルには、ブーツが取り付けられています。ブーツが確実に取り付けられていることを確認してください。洗車時には、ブーツに直接水をかけないようにしてください。ブーツが汚れている場合は、水で濡らした布でふき取ってください。



ドライブチェーン

■ 概要

この車両のチェーンは、エンドレスドライブチェーンを使用しています。チェーンを交換するときは、スズキ販売店にご相談ください。
毎回、運転する前にはドライブチェーンの状態とゆるみを点検してください。点検と整備の方法は、次の「点検」の項目に従ってください。

⚠警 告

ドライブチェーンのゆるみが多いとスプロケットから外れ、重大な事故を引き起こすおそれがあります。

運転前にドライブチェーンの点検または調整をしてください。

■ ドライブチェーンの点検

次の点を点検してください。

- ピンのゆるみ
- ローラーの損傷
- リンクの乾燥やサビ
- 曲がりや固着
- 異常摩耗
- ゆるみ(たるみ)量

ドライブチェーンの状態や調整に関して、不具合を見つけた場合はご自身の知識や技量に応じて整備してください。ご自身での整備が難しい場合は、スズキ販売店にご相談ください。

もしドライブチェーンが損傷している場合は、スプロケットも損傷しているおそれがありますので、スプロケットについて次の点を点検してください。

- 歯の異常摩耗
- 歯の欠損または損傷
- スプロケットマウントナットのゆるみ

スプロケットに不具合が見つかったときは、スズキ販売店にご相談ください。

ドライブチェーン

⚠警 告

かしめが不十分だったり、クリップ式のチェーンを使ったりすると、ドライブチェーンが外れたり切れたりする原因になります。重大なエンジンの損傷や事故を引き起こすおそれがありますので注意してください。

チェーンの交換には、特別な工具や品質の高いノンクリップタイプのチェーンが必要です。専門の技術が必要ですので、スズキ販売店にご相談ください。

■ ドライブチェーンの清掃・注油

次の手順で清掃・注油してください。

1. ドライブチェーンにホコリや泥などが付着しているときは汚れを取り除きます。そのときに、シールリングを傷付けないように注意してください。
2. 洗浄は、シールチェーン専用クリーナまたは水や中性洗剤などとやわらかいブラシを使用します。
   ブラシはやわらかくてもシールを痛める場合があるため、シールリングを傷付けないように注意してください。

   推奨クリーナ：スズキアルミホイール&チェーンクリーナ

注 記

不適切な清掃をすると、ドライブチェーンのシールリングに傷がついたりドライブチェーンが壊れたりすることがあります。

- **シンナー、灯油、ガソリン等の揮発性溶剤を使用しないでください。**
- **高圧洗車やスチーム洗車をしないでください。**
- **ワイヤーブラシを使用しないでください。**

3. 水や洗浄剤をきれいにふき取ります。

4. 注油は２輪シールチェーン専用オイルもしくは粘度の高いオイル（#80～90）を使用します。

   推奨オイル：スズキチェーンオイルR

注 記

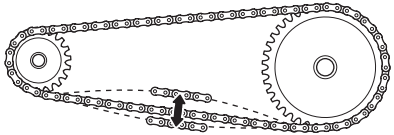
ドライブチェーンオイルの中にシールリングに損傷を与える溶剤や添加物が含まれている場合があります。

シールリング付きドライブチェーン専用オイルを使用してください。

5. オイルがドライブチェーン各部によく行きわたるように、ドライブチェーンチェーンの手前と奥の両側に注油します。
6. 全周に注油した後、外側の余分なチェーンオイルを乾いたウエスでふき取ります。

■ ドライブチェーンの調整

運転前にドライブチェーンのゆるみ（たるみ）を点検してください。平坦地に駐車して、チェーンローラーとリヤスプロケットの中央部でドライブチェーンの遊びを測定します。測定した数値が30～40 mm (DR-Z4S) / 20～30 mm (DR-Z4SM)でない場合は調整してください。



30～40 mm (DR-Z4S)
20～30 mm (DR-Z4SM)

⚠注 意

エンジン回転中および停止後、しばらくの間は、エキゾーストパイプやマフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。

ドライブチェーンの整備は、素手で触れても熱くない温度まで下がってから行ってください。

ドライブチェーン

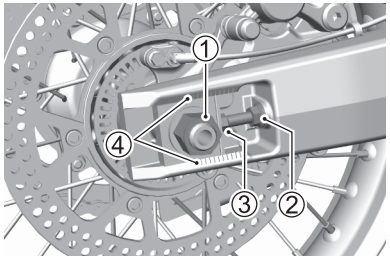
ドライブチェーンのゆるみ(たるみ) は、次の手順で調整してください。

1. 平坦地に駐車し、サイドスタンドを立てます。
2. アクスルナット①をゆるめます。
3. 左右のロックナット②をゆるめます。
4. 左右のアジャスタボルト ③ を回してフロントスプロケットとリヤスプロケットの中央部のゆるみ（たるみ）が規定値になるように調整します。

   ゆるみ（たるみ）規定値：
   30～40 mm (DR-Z4S)
   20～30 mm (DR-Z4SM)

アドバイス

ドライブチェーンはフロントスプロケットとリヤスプロケットに対して一直線上になるように調整します。スイングアーム上の目盛り④を目安に左右同じ位置に合わせてください。



（図：DR-Z4S）

5. アクスルナット ① を規定トルクで締め付けます。

   アクスルナット規定トルク:110 N·m
6. ゆるみが規定値であるか再確認します。必要であれば再調整します。
7. 左右のロックナット ② を締め付けます。

   チェーンアジャスタロックナット規定トルク：22 N·m

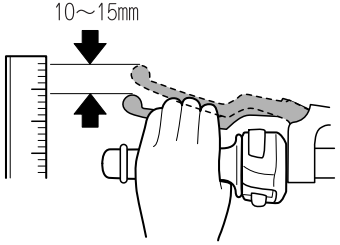
アドバイス

- **スイングアーム上の目盛り ④ の範囲内で調整してください。スイングアーム上の目盛り④の範囲を超える場合はドライブチェーンを交換してください。**
- **アクスルナットの締め付けは、トルクレンチを使用してください。トルクレンチが無い場合は、スズキ販売店へご相談ください。**

クラッチ

■ クラッチレバーの遊びの点検

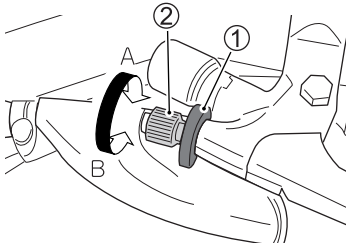
軽い抵抗を感じるまでクラッチレバーを引き、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内（10～15 mm）にあるかを点検します。規定の範囲から外れている場合は、クラッチケーブルアジャスタを回しクラッチレバーの遊びの量を次のように調整してください。



■ クラッチレバーの遊びの調整

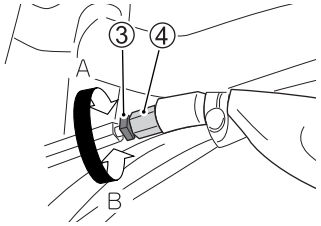
＜クラッチレバー部（微調整）＞

クラッチレバー部のブーツをずらします。ロックナット①をゆるめ、アジャスタ②を回し遊びを調整します。アジャスタ②をAのように回すと遊びが多く、Bのように回すと遊びが少なくなります。調整後は、ブーツを元の位置に戻します。



＜クラッチケーブル部（主調整）＞

クラッチケーブル部のブーツをずらします。アジャスタ④により遊びを調整します。ロックナット③をゆるめアジャスタ④をAのように回すと遊びが多く、Bのように回すと遊びが少なくなります。調整後は、ブーツを元の位置に戻します。



アドバイス

- **調整後、遊びが規定の範囲内にあるか確認してください。**
- **調整後、エンジンをかけチェンジ操作がスムーズであるか、エンストまたは飛び出しなどがないか確認してください。**

アドバイス

上記の方法で適正な遊びに調整ができない場合は、スズキ販売店にご相談ください。

ブレーキ

■ 概要

この車は、前輪と後輪にディスクブレーキを装備しています。

⚠警 告

ブレーキ系統の点検と整備が不適切な場合は、事故にあう可能性が増えます。

運転前には、「乗車前点検」の項目を参考に点検してください。また、メンテナンスノートに従って定期点検を行ってください。ブレーキ液は、安全のため2年毎に交換してください。

アドバイス

泥、水、砂などがブレーキにかかる運転は、ブレーキディスクやパッドの消耗が早くなります。このような運転が多い場合には、メンテナンスノートの点検時期より頻繁に点検してください。

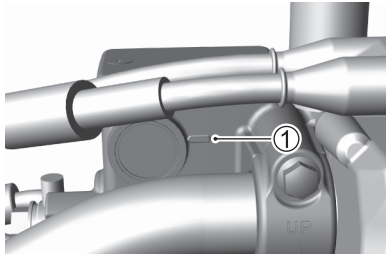
■ ブレーキホースの点検

ブレーキホースや接続部に損傷がないかを点検してください。もし、ひび割れや亀裂などの不具合が見つかったときは、スズキ販売店でブレーキホースを新しいものに交換してください。

■ ブレーキ液の量の点検

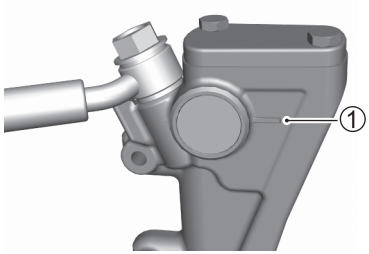
平坦地で車体を垂直にし、ハンドルを直進状態にして、リザーバタンクの液面がロアレベル①より上にあるかを点検します。

フロントブレーキ



運転席から見たところ

リヤブレーキ



車両左側面から見たところ

⚠警 告

液面がロアレベル以下の場合は、ブレーキパッドの摩耗やブレーキ系統の液漏れ等が考えられます。

スズキ販売店で点検を受けてください。

⚠警 告

ブレーキ液は、吸湿性が高いためブレーキホースなどを通して徐々に湿気を吸収します。湿気を吸収すると沸点が下がり、ブレーキが効きにくくなることがあります。また、ブレーキ部品を腐食させてブレーキシステム（ABSを含む）の異常を引き起こすおそれがあります。

安全のため、2年毎にブレーキ液を交換してください。

指定ブレーキ液：
スズキブレーキフルードDOT4
（JIS BF-4）

⚠警 告

DOT4のブレーキ液以外を使用すると、ブレーキの損傷の原因になり事故を招くおそれがあります。

必ずDOT4のブレーキ液を使用し、違う種類のものを混ぜて使用しないでください。また、ブレーキ液の容器は、品質の低下を防ぐために使う直前に開けてください。ブレーキ液を取扱う前に、容器に記載されている注意文をよく読んでください。

⚠警 告

リザーバタンクにゴミなどが入ると、ブレーキ系統の故障の原因になります。

ブレーキ液を入れるときは、フィラーキャップを開ける前にキャップの周りを清掃してください。

ブレーキ

⚠警 告

ブレーキ液は有害ですので、絶対に飲まないでください。また、皮膚に付いたりや目に入らないように注意してください。

もし、飲んだ場合には、すぐに医師に連絡してください。目に入った場合は、すぐに水で洗い流し、医師の診察を受けてください。また、幼児やペットが触れない場所に保管してください。

注 記

ブレーキ液はお車の塗装面、プラスチック、ゴム類を痛めるおそれがありますので、こぼさないように注意してください。

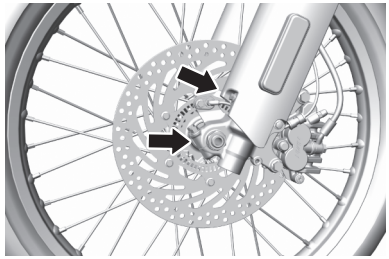
こぼれたときは、すぐにふき取ってください。

■ ブレーキパッドの摩耗の点検

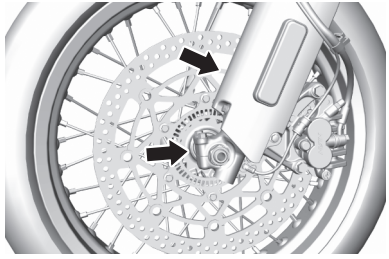
ブレーキキャリパの上方と前方(フロントブレーキ)、または後方(リヤブレーキ)から、パッドの摩耗を点検します。
摩耗限度溝①がディスクプレートまで達したら（パッドの厚さが約1 mmになったら)、パッドを交換してください。

ブレーキパッド交換後は、ブレーキレバーまたはブレーキペダルが正規のタッチになるまで、数回ストロークしてください。これにより、ブレーキパッドが適切な位置になります。
新しいブレーキパッドは、効き具合が異なる場合がありますので、慎重な運転を心がけてください。

フロントブレーキ

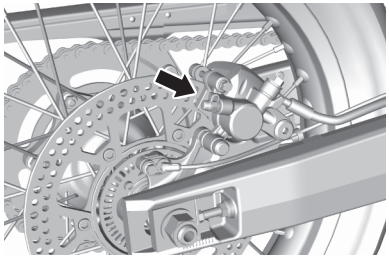


(DR-Z4S)

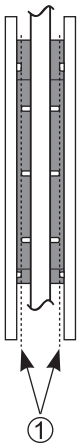


(DR-Z4SM)

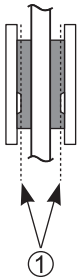
リヤブレーキ



(図：DR-Z4S)



フロント



リヤ

⚠警 告

ブレーキパッドの点検や整備を行わなかったり、適切なパッドを使わなかった場合には、ブレーキが効かずに事故を招くおそれがあります。

ブレーキパッドの交換は、スズキ販売店にご相談ください。

⚠警 告

両側にあるブレーキパッドのうち片側だけを交換すると、ブレーキの利きが安定しません。

両方のブレーキパッドを一緒に交換してください。

ブレーキ

⚠警 告

ブレーキを修理したり、ブレーキパッドを交換したりした後は、パッドが適切な位置になっていません。ブレーキレバーやペダルを数回ストロークせずに走行すると、ブレーキが効きにくくなっているため危険です。

走行前に必ずブレーキレバーやペダルを数回ストロークして、ブレーキが効くことを確認してください。

アドバイス

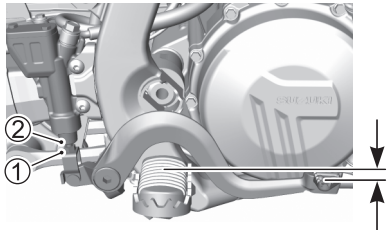
ブレーキパッドの交換中は、ブレーキレバーやペダルをストロークしないでください。ブレーキキャリパのピストンを元の位置に戻すことが難しくなるだけでなく、ブレーキ液が漏れる原因になります。

■ リヤブレーキペダルの高さ調整

ブレーキペダルの高さは、適切な位置に調整してください。調整が不適切だと、ブレーキパッドがディスクに当たり続け、摩耗や損傷の原因になります。

次の手順でブレーキペダルの位置を調整してください。

1. ロックナット ① をゆるめてプッシュロッド②を回し、ペダルをフットレスト上面から3～13 mm低い位置に調整します。



3～13 mm

2. ロックナット①を締め付け、プッシュロッド②を固定します。
3. リヤブレーキランプスイッチを調整します。(☞P.109)

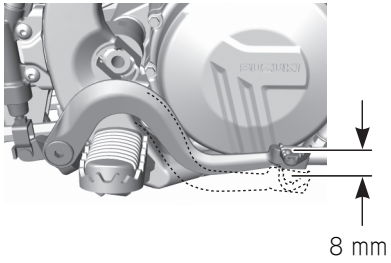
注 記

ブレーキペダルの調整が不適切だと、ブレーキパッドとディスクが常に当たり続け、摩耗や損傷の原因になります。

この項目に書かれている方法で、ブレーキペダルを正しく調整してください。

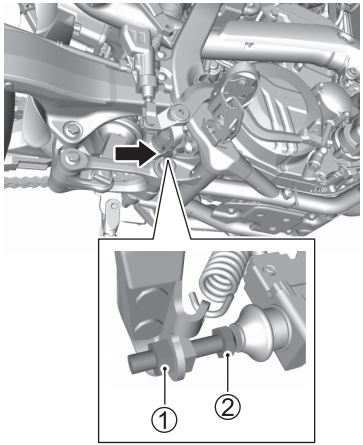
■ リヤブレーキランプスイッチの点検および調整

リヤブレーキペダルを8 mm程度踏み込んだときに、ブレーキランプが点灯を始めるか点検します。点灯の開始が早い場合や遅い場合は、リヤブレーキランプスイッチを調整してください。



次の手順でリヤブレーキランプスイッチを調整してください。

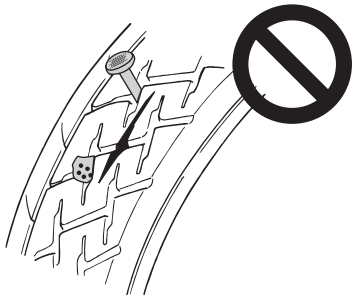
1. ロックナット①をゆるめます。
2. アジャスタボルト②を回して、ブレーキペダルの遊びが8 mmになるように調整します。
3. ロックナット ① を確実に締め付けます。



タイヤ

■ 概要

タイヤの接地面および側面の全周に、亀裂や損傷がないかを確認します。また、釘や石などの異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを確認します。



タイヤ

また、タイヤの接地面が、異常に磨耗していないかを確認します。異常に磨耗している場合は、スズキ販売店にご相談ください。



タイヤを交換する場合は、必ず指定タイヤを使用してください。

指定タイヤ

(DR-Z4S)

前	サイズ	80/100-21M/C 51P
	種類	IRC GP-410F AT
後	サイズ	120/80-18M/C 62P
	種類	IRC GP-410R AT

(DR-Z4SM)

前	サイズ	120/70R17M/C 58H
	種類	DUNLOP SPORTMAX Q5AF M
後	サイズ	140/70R17M/C 66H
	種類	DUNLOP SPORTMAX Q5A M

アドバイス

タイヤにはタイヤチューブを取り付けてください。

⚠警 告

指定外のタイヤの使用は、安全走行に悪影響を与える場合があります。

必ず指定タイヤを取り付けてください。

⚠警 告

タイヤの修理、取り付け、バランス取りが不適切だと、お車をコントロールしにくくなったり、タイヤの摩耗が早くなったりします。

- **タイヤの交換、修理、バランス取りには、適切な工具や経験が必要ですので、スズキ販売店やバイクショップにご相談ください。**
- **取り付けるときには、タイヤ側面にある回転方向を示す矢印に注意して取り付けてください。**

⚠警 告

タイヤは、お車と路面をつなぐ重要な部品です。安全に運転するために、以下の内容をお守りください。

- 運転する前に、タイヤの状態と空気圧をチェックし、必要であれば空気圧を調整してください。
- 最大積載量を守り、過度な積載は避けてください。
- 限界まで摩耗していたり、亀裂や損傷を発見したりしたときは交換してください。
- この取扱説明書に記載されているサイズと種類のタイヤを必ず使用してください。
- 取り付け後は、ホイールのバランスを取ってください。
- この取扱説明書のこの章をよく読んでください。

⚠警 告

タイヤのならしを適切に行わないと、タイヤがスリップしてコントロールを失うおそれがあります。新しいタイヤに交換したときは、特に注意して運転してください。

「ならし運転」（☞P.10）を参照し、最初の160 kmは急加速、急カーブ、急ブレーキを避けてタイヤのならしを正しく行ってください。

アドバイス

新しいタイヤはスリップしやすいので、車を深く倒さないでください。倒す角度は徐々に大きくしてタイヤをならしてください。

■ タイヤ空気圧の点検

安全運転のために、タイヤの空気圧と使用するタイヤの選択は取扱説明書に従ってください。

タイヤは、走行すると温まって空気圧が上がるため、走行前のタイヤが冷えているときにタイヤゲージを使用して、規定の空気圧になっているか点検します。規定値を外れている場合は、適正な空気圧に調整してください。



タイヤ

また、最大積載量を超えると、タイヤの損傷につながったり、お車をコントロールできなくなたりするおそれがありますので注意してください。

運転する前に、次の表を参考に、乗車人数にあったタイヤの空気圧になっているか確認してください。

タイヤ空気圧

(DR-Z4S)

1人乗車時	**前**	150 kPa
	後	175 kPa
2人乗車時	**前**	150 kPa
	後	225 kPa

(DR-Z4SM)

1人乗車時	**前**	200 kPa
	後	200 kPa
2人乗車時	**前**	200 kPa
	後	250 kPa

空気圧が下がると、曲がりにくくなるだけでなく、タイヤの摩耗が早くなります。逆に、空気圧が高いとタイヤと路面の接地面が小さくなるため、すべって転倒する原因になります。

■ タイヤ溝の深さの点検

タイヤの状態や種類は、お車の性能に影響します。タイヤに亀裂や損傷などの異常があると、お車をコントロールできなくなるおそれがあります。摩耗したタイヤは、ハンドリング特性が変わるだけでなく、パンクしやすくなりますのでご注意ください。

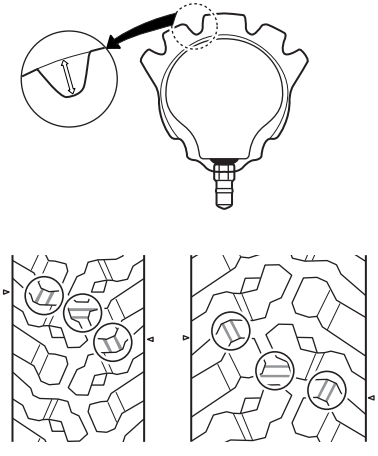
運転前に、タイヤの状態を確認してください。
使用限度近くまで摩耗しているときは、安全に走行するために早めのタイヤ交換をおすすめします。

溝の深さは、以下の数値が望ましい状態です。
(DR-Z4S)
前4.0 mm、後4.0 mm以上

(DR-Z4SM)
前1.6 mm、後2.0 mm以上

ウエアインジケータが路面に接触するようになったら、タイヤの摩耗限界に到達したことを示していますので、タイヤを交換してください。

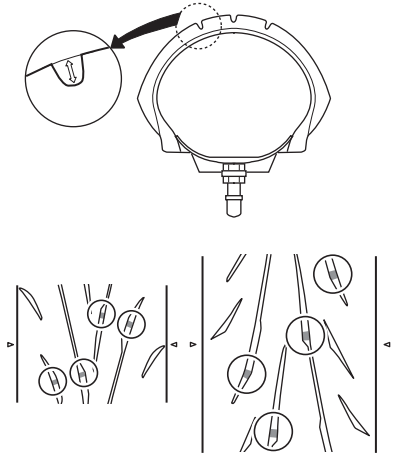
(DR-Z4S)



前輪ウエア
インジケータ

後輪ウエア
インジケータ

(DR-Z4SM)



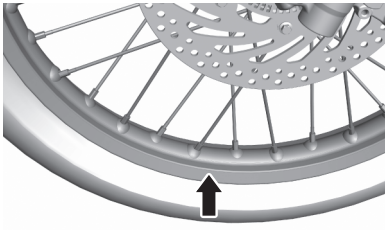
前輪ウエア
インジケータ

後輪ウエア
インジケータ

ホイール

■ ホイールリムの点検

ホイールのリムにひび、ひずみ、曲がりなどの損傷がないか点検します。



(図：DR-Z4S)

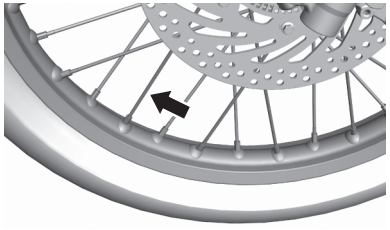
⚠警 告

損傷したリムは、エア漏れや走行安定性の低下をまねき、事故の原因となるおそれがあります。

損傷を見つけた場合はリムを交換してください。また、損傷したリムは、修正、修理をして再使用しないでください。

■ ホイールスポークの点検

スポークの点検は、スポークを金属製の棒で軽くたたいて行います。たたいたときに、にぶい音がするスポークは調整が必要です。スポークの調整は、スズキ販売店にご相談ください。



(図：DR-Z4S)

⚠警 告

スポークの調整には、専門的な技術と知識が必要です。不適切な調整は他のスポークに影響を与え、リムの変形や走行安定性の低下をまねくおそれがあります。

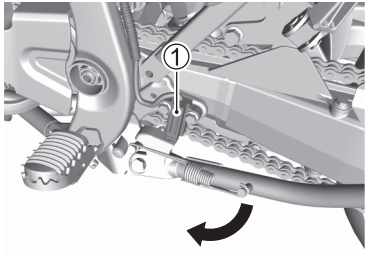
スポークの調整はスズキ販売店にご相談ください。

サイドスタンド/インタロックシステム

■ サイドスタンド/インタロックシステムの点検

次の手順でサイドスタンド/インタロックシステムが正常であるか点検します。

1. サイドスタンドを外して乗車します。
2. ギヤを1速に入れて、クラッチレバーを完全に握り、エンジンを始動します。
3. クラッチレバーを握ったままでサイドスタンドを出します。



① サイドスタンドインタロックスイッチ

- サイドスタンドを出したときにエンジンが停止するようならサイドスタンド/インタロックシステムは正常に機能しています。
- ギヤが入っている状態でスタンドを出したときにエンジンが停止しないようならサイドスタンド/インタロックシステムは適切に動作していません。スズキ販売店で点検を受けてください。

ヒューズ

■ 概要

電装部品は、大きな負荷がかかっても破損しないようにヒューズで保護されています。電装部品が動かないときは、ヒューズが切れていないかを確認してください。

⚠警 告

指定容量を超えるヒューズや針金、銀紙などを使用すると、配線が焼損したり火災が発生したりする原因となります。

配線の過熱、焼損の原因となるので使用しないでください。原因が分からないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

注 記

お車に適さない電装品類（ランプ、計器など）を取り付けるとヒューズが切れたり、バッテリあがりを起こしたりすることがあります。

電装品類を取り付けるときは、スズキ純正用品をご使用ください。

注 記

洗車時、ヒューズのまわりに水を強く吹き付けると、配線の中に水が入り、腐食やショートの原因になります。

ヒューズのまわりは、水を強く吹き付けないように注意してください。

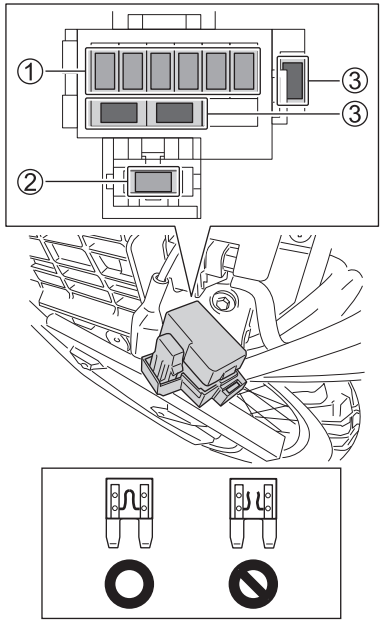
ヒューズ

■ メインヒューズ、ヒューズ

各ヒューズはサイドフレームカバー（左側）の下にあります。

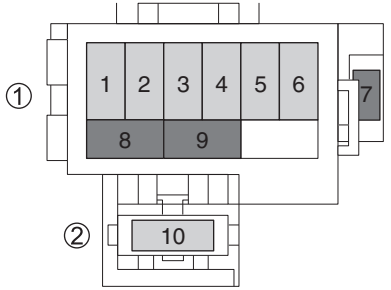
次の手順で各ヒューズを点検します。

1. メインスイッチを**OFF**にします。
2. サイドフレームカバー（左側）を取り外します。
   ☞「シート」(P.65)参照
3. ヒューズボックスを開け、MAINヒューズ/ヒューズ①、FANヒューズ②を抜いて点検します。
4. 切れている場合は原因を確認後、同じアンペアのスペアヒューズ③と交換します。原因が分からないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。



■ ヒューズリスト

次の表は、各ヒューズが保護する主な接続装置を表しています。



① ヒューズボックス（MAIN、各ヒューズ）
② ヒューズボックス（FAN）

位置	表示	容量	主な接続先
1	MAIN	30 A	・すべての電気回路
2	ABS-V	10 A	・ABS (バルブ)
3	ABS-M	15 A	・ABS (モータ)
4	FUEL	10 A	・ECM ・フューエルポンプ ・ETVリレー ・スピードメータ ・インジェクタ
5	IGNITION	10 A	・O2センサ ・ECM ・C.P.ソレノイド ・フューエルポンプリレー ・クーリングファンリレー ・スタータサブリレー ・パワーソース(オプション) ・スタータリレー
6	SIGNAL	10 A	・ABS ・ホーン ・スピードメータ ・ターンシグナルランプ ・ストップランプ ・テールランプ ・ヘッドランプ(ロービーム) ・ヘッドランプ(ハイビーム)
7	SPARE	30 A	-
8	SPARE	10 A	-
9	SPARE	15 A	-
10	FAN	10 A	・クーリングファンモータ

灯火装置

■ LED（発光ダイオード）

この車の灯火装置には、LEDを使用しています。
LEDを使用したランプは非分解式のため、LEDのみの交換はできません。もし、LEDが1つでも点灯しなくなった場合は、スズキ販売店にご相談ください。

ヘッドランプ H/L		LED
ポジション (フロントターンシグナル)		LED
ストップ/テール		LED
ターンシグナル	前	LED
	後	LED
ライセンス		LED

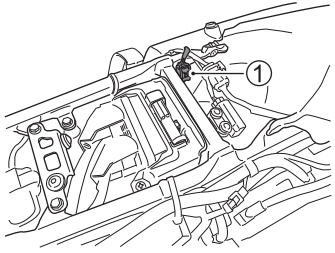
故障診断カプラ

■ 故障診断カプラ

故障診断カプラ①はシート下にあります。

アドバイス

故障診断カプラは、販売店などでの整備時に使用します。



トラブルシューティングとは

トラブルシューティングには、一般的なトラブルの原因を見つけるための情報をのせています。
お車に不具合や違和感を感じたときは早めにスズキ販売店にご相談いただくことをおすすめします。

注 記

不適切な整備や調整は、お車の損傷の原因となり、保証を適用されない場合があります。

不明な点がある場合は、スズキ販売店にご相談ください。

エンジンがかからないときは

次の点を確認してください。

- 始動手順は手順通りですか?
  ☞「エンジンのかけかた」(P.55)
- フューエルタンクに燃料は入っていますか?
  ☞「ガソリンの給油」(P.60)
- エンジン警告灯(MIL)は点灯したままになっていませんか?
  ☞「エンジン警告灯(MIL)」(P.31)
- バッテリ端子がゆるんでいませんか?
  ☞「バッテリ」(P.82)
- ヒューズが切れていませんか?
  ☞「ヒューズ」(P.115)

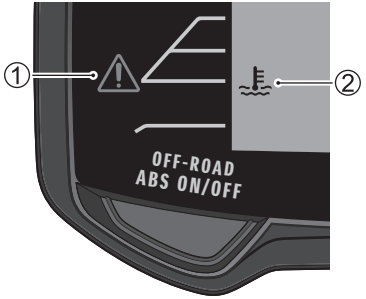
異常がある場合はスズキ販売店にご相談ください。

オーバーヒートしているときは

アドバイス

エンジンがオーバーヒートすると、インジケータ類が同時に次の状態になってお知らせします。

- **マスターウォーニングインジケータライト(赤)①が点灯**
- **水温警告灯シンボル②が点灯**



マスターウォーニングインジケータライト(赤)および水温警告灯シンボルが点灯したら安全な場所に停車して、次の点を確認し、必要に応じた処置を行ってください。

1. メインスイッチを**OFF**にして、エンジンをとめます。
2. メインスイッチを**ON**にし、ラジエータファンを作動させてエンジンを冷やします。
   ラジエータファンが作動しない場合はエンジンをかけずにスズキ販売店にご相談ください。
3. エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やホースなどからの水漏れがないかを確認します。
   - 水漏れしているときは、エンジンをかけずにスズキ販売店にご相談ください。
   - 水漏れしていなくて、冷却水の量が不足しているときは冷却水を補充します。やむをえず水だけを補充した場合は、できるだけ早くスズキ販売店で冷却水の点検または交換をしてください。
4. 確認して異常がない場合は、マスターウォーニングインジケータライト(赤)および水温警告灯シンボルが消灯すれば走行可能です。お車に不具合がないかを、できるだけ早くスズキ販売店で点検を受けてください。

注 記

オーバーヒートしている状態で走行するとエンジンに重大な損傷を与えるおそれがあります。

マスターウォーニングインジケータライト(赤)および水温警告灯シンボルが点灯した状態で走行しないでください。

メータに次の表示が出たときは

メータに次の表示が出たときは、スズキ販売店にご相談ください。

- エンジン警告灯(MIL)が点灯または点滅したとき
  ☞「エンジン警告灯(MIL)」(P.31)
- オドメータ表示部にFIを表示したとき
  ☞「マスターウォーニングインジケータライト /マスターウォーニングインジケータ /充電警告灯シンボル /水温警告灯シンボル」(P.32)
- オドメータ表示部のCHEC表示が消えないとき
  ☞「マスターウォーニングインジケータライト /マスターウォーニングインジケータ /充電警告灯シンボル /水温警告灯シンボル」(P.32)
- メインスイッチを ON にしたときに、ABS警告灯が点灯しないとき
  ☞「ABS 警告灯 (ABS)」(P.34)
- ギヤポジション表示がニュートラルのときに、ニュートラルインジケータライトが点灯しないとき
  ☞「エンジンをかける前に」(P.55)
- ギヤポジション表示が1、2、3、4、5のときに、ニュートラルインジケータライトが点灯するとき
  ☞「エンジンをかける前に」(P.55)
- トラクションコントロールを設定しているときに、走行中に消灯していたTCインジケータライトが点灯したとき
  ☞「TCインジケータライト」(P.30)
- 水温警告灯シンボルが点灯し、エンジンが冷えても消灯しないとき
  ☞「オーバーヒートしているときは」(P.118)

お車が次の状態のときは

お車が次の状態のときは、スズキ販売店にご相談ください。

- エンジンが始動しないとき
- 転倒したとき
- 異音や液漏れがあるとき
- エンジンの出力が落ちたときや出ないとき
- ブレーキ液の液面が下がったときやブレーキ液やパッドを交換するとき
- ブレーキの効きが悪くなったとき
- 冷却水の液面が下がったときや交換するとき
- ヒューズが切れた原因が分からないとき
- タイヤが限度溝まで減ったときや交換するとき

メ モ

お車の手入れ

保管のしかた

■ 概要

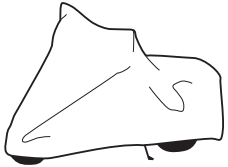
お車に長期間乗らないときには、保管する前に十分なお手入れが必要です。次にあげるお手入れをしましょう。

アドバイス

ご自身で行うのが難しいときは、スズキ販売店にご相談ください。

■ 車体

お車は、倒れにくい平坦な場所に駐車してください。もし、メインスタンドを装備している車の場合は、メインスタンドで駐車してください。
保管する前には洗車し、乾燥させた後にボディカバーをかけてください。



アドバイス

ボディカバーは、エンジン、エキゾーストパイプやマフラが冷えてからかけてください。

■ バッテリ

1. 「バッテリ」（☞P.82）の項目を参考に、バッテリを取り外します。
2. バッテリの外側を清掃するときは中性洗剤でふき、端子が腐食しているときはワイヤーブラシなどでサビを落としてください。
3. 気温が低いときは、室内で保管してください。

アドバイス

バッテリは、自己放電と電気漏れを少なくするため、車から外し、完全補充電して室内か風通しのよい暗い場所に保存してください。車に積んだまま保存する場合は(−)ターミナルを外してください。

補充電については、スズキ販売店にご相談ください。

■ タイヤ

タイヤの空気圧は規定圧に調整してください。必要に応じてメンテナンス用スタンドなどを使用して前輪と後輪を地面から浮かせてください。

アドバイス

前輪と後輪を地面から浮かせる方法については、スズキ販売店にご相談ください。

長期保管後は

■ 再始動の手引き

1. ボディカバーを外し、洗車します。
2. スズキ販売店でエンジンオイルとオイルフィルタを交換します。
3. 「バッテリ」(☞P.82) の項目を参考に、バッテリを取り付けます。
4. 「注油」(☞P.80)の項目を参考に、注油します。
5. 日常点検を実施します。
6. エンジンをかけます。

サビを防ぐために

■ サビの原因

お車のサビを防いで、長持ちさせるためにお手入れしましょう。

次のものは腐食の原因となります。

- 海岸や凍結防止剤をまいた道路などの塩分、未舗装路、走行による飛び石などによる傷、湿気、化学物質の蓄積など
- 軽い事故や石や砂利が当たったときの金属部品や塗装面への傷など

サビを防ぐために

■ サビにくくするためには

- 少なくとも月に1回は、洗車しましょう。また、洗車後はきれいなやわらかい布で水分をふき取ってください。
- お車に凍結防止剤、化学薬品、油やタール、樹液、鳥のふんなどが付着するとお車の外観を悪くするだけでなく、サビなどの原因になりますので、付着したときはできるだけ早く取り除いてください。水で落ちない場合には、クリーナを使用してください。特別なクリーナを使用するときには、クリーナの取扱い方法をよくお読みください。
- お車に傷を見つけたら、できるだけ早く直してください。塗装面より深い傷はサビの原因になりますので、飛び石やひっかき傷を見つけたときはよく確認してください。サビのおそれがあるときには、タッチアップペイントで補修してください。傷がひどいときは、スズキ販売店にご相談ください。
- お車の保管場所は、乾燥していて換気の良い場所が理想的です。ガレージで洗車したり濡れたりしたまま保管することが多いと、ガレージの湿度が上がりサビの発生や進行の原因になるおそれがあります。また、換気の悪いガレージに濡れた車を停めた場合には、ガレージの中が暑くてもサビが発生するおそれがあります。
- 駐車するときは、お車にボディカバーをかけましょう。日中の強い日差しにさらされると、塗装面、プラスチック部品、メータなどの着色部品の色あせの原因になります。お車を有害な紫外線などから守るために、品質の良い、通気性に優れたカバーをご使用ください。適切なカバーの選び方が分からない場合には、スズキ販売店にご相談ください。

アドバイス

保管前に各部のワックスがけを行ってください。サビを防ぐ効果があります。

アドバイス

海岸や凍結防止剤をまいた道路などを走行した後は、直ちに冷水で水洗いをして乾いた布で水分をふき取ってください。温水で洗うと塩の腐食が進行するので、必ず冷水で洗ってください。

洗車

■ 車体

お車を長持ちさせるためにも、きれいな状態に保ちましょう。異常などが早く発見でき、故障予防にもなります。なお、洗車はエンジンが冷えているときに行いましょう。
洗車は、次の手順で行ってください。

1. 冷たい水道水をかけながら、やわらかいスポンジやブラシでホコリや泥を落とします。硬いブラシなどを使うと塗装面に傷を付ける原因になりますので使用しないでください。
2. スポンジややわらかい布を使って、中性洗剤で洗います。スポンジや布に付いた汚れで傷を付けないためにも、頻繁に洗浄液に浸しましょう。
3. 汚れが完全に取れたら、大量の水道水で洗剤を洗い流します。

アドバイス

洗剤を使用して洗車したときに、洗剤が洗い流せていなかった場合には樹脂部品に悪影響を与えるおそれがあります。洗剤を使用したときは、大量の水道水を使用して完全に洗い流してください。

4. すすぎ終わったら、セーム革などの吸水性の良いやわらかい布で水分をふき取り日陰で乾燥させます。
5. 塗装面に損傷がないかを注意深く点検します。損傷があるときは、タッチアップペイントを用意し、下記要領でタッチアップします。
   a.損傷している箇所を清掃し乾燥させます。
   b.ペイントをかき混ぜ、損傷部分に小さいブラシで薄く塗ります。
   c.ペイントを完全に乾燥させます。

注 記

洗車時、マフラ、エアクリーナや電装部品に水が入ると始動不良やサビ発生の原因となります。

洗車時には、水が入らないように注意してください。

注 記

アルカリ性や強酸性のクリーナ、ガソリン、ブレーキ液、その他のケミカル類で洗車すると部品を損傷させるおそれがあります。

洗車後、大量の水道水を使用し中性洗剤を完全に洗い流してください。

洗車

注 記

コイン式の洗車場にあるような高圧洗浄機やスチーム洗車機を使用すると車体に損傷をあたえ、サビや腐食の原因になるだけでなく、部品の消耗を早めるおそれがあります。また、パーツクリーナも車体に悪影響をおよぼすおそれがあります。

洗車をする場合は高圧洗浄機を使用しないでください。また、スロットルボディやフューエルインジェクションセンサにパーツクリーナを使用しないでください。

注 記

ラジエータに高圧の水をかけると、冷却フィンが損傷するおそれがあります。

ラジエータ周辺を洗うときには、注意してください。

アドバイス

下記の場所には水を噴射したり、流したりしないでください。

- **メインスイッチ**
- **スパークプラグ**
- **フューエルタンクキャップ**
- **フューエルインジェクションシステム**
- **ブレーキマスターシリンダ**
- **スロットルケーブルブーツ**

アドバイス

洗車後や雨天走行後にヘッドランプのレンズが曇ることがあります。この場合は、ヘッドランプを点灯することで曇りは徐々に消えます。バッテリあがりを防ぐために、エンジンをかけながらヘッドランプを点灯させてください。

■ ホイール

アルミホイールは、塩分などの汚れを嫌います。アルミホイールの美しさを保つため、定期的な清掃に加えて、海岸や凍結防止剤をまいた道路などを走行した後はできるだけ早く冷水で水洗いしましょう。

1. 中性洗剤をスポンジに含ませて、汚れを落とします。
2. 冷水で十分に水洗いをして、乾いた布で水分をふき取ります。

アドバイス

アルミホイールは、傷がつきやすいため、みがき粉、硬いブラシや金属タワシなどの硬いものでこすったり、当てたりしないでください。

■ プラスチック製部品

ヘッドランプレンズ、スピードメータディスプレイなどのプラスチック製部品は傷つきやすいので、清掃するときは中性洗剤または石けん水で洗った後、水洗いし、やわらかい布でふいてください。

注 記

ヘッドランプレンズ、スピードメータディスプレイなどのプラスチック製部品に、以下のものが付着すると傷や部品の損傷の原因になります。

- **コンパウンド入りワックス**
- **油膜とり剤やはっ水剤などのケミカル用品**
- **酸性・アルカリ性の洗剤**
- **ブレーキ液、ガソリン、アルコール、有機溶剤など**

■ エキゾーストパイプ

ステンレス鋼のエキゾーストパイプは、油脂などの汚れにより焼けむらが生じることがあります。

- 汚れは、ステンレス用の台所洗剤を使って、布かスポンジで洗浄ののち、十分に水洗いし乾いた布で水分をふき取ります。
- 焼けむらが生じた場合は、ステンレススチールマフラークリーナー（品番99000-59312）などで磨いてから、汚れを落とします。

注 記

エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。

冷めるまでは触れないように、注意してください。

アドバイス

排気熱によってエキゾーストパイプは変色しますが、機能上問題はありません。

■ ワックスがけ

洗車後は、サビ予防や塗装面の保護のためにワックスがけを行ってください。

- ワックスとポリッシャーは、品質の良いものを使用してください。
- ワックスとポリッシャーは、そのメーカーの取扱説明書に従って行ってください。

洗車

■ つや消し塗装

つや消し塗装の車両は、次の注意事項をお守りください。

- コンパウンド入りワックスなどで、塗装面や樹脂部品を強く磨くと色むらが生じる場合があります。
- 固形ワックスは、ふき取りが困難になることがあります。
- つや消し塗装専用のクリーナを使用してください。
- 使用中の摩擦や、表面を擦り過ぎたり強く磨いたりすると、つや消し表面が変化することがあります。

洗車後は

■ 洗車後のお手入れ

車体を乾燥させた後、ブレーキレバーやスタンドの取り付け部へグリースなどを注油してください。
注油する場所については、「注油のポイント」(☞P.80)の項目をご確認ください。
また、前回の運転時に見つかった不具合がないかを＜日常点検＞(☞P.77)の項目を参考にして確認してください。

⚠警 告

洗車後はブレーキの効き具合が悪くなる場合があります。

効きが悪いときは、前後の車に十分注意して低速で走行しながら、効きが回復するまでブレーキを軽く作動させてください。

メ モ

触媒装置

■ 触媒装置について

この車のマフラには、触媒装置が内蔵されています。この触媒装置の働きによって排出ガスの有害物質の排出量を低減します。

不適切な調整や誤った取扱いによるエンジンの不完全燃焼（失火）は、触媒装置を異常な高温にするおそれがあります。触媒装置および他の関連部品が損傷する原因になりますのでご注意ください。

触媒装置に特別な点検や整備は必要ありませんが、エンジンは定められた点検、整備を実施してください。

注 記

触媒装置および他の関連部品の損傷を避けるために、次の注意事項をお守りください。

- **必ず無鉛ガソリンを使用してください。**
- **走行中にメインスイッチやエンジンストップスイッチを操作して、エンジンを停止しないでください。**
- **押しがけや下り坂を利用してのエンジンの始動を行わないでください。**
- **診断テスト中などで、スパークプラグワイヤを取り外した状態でエンジンを始動しないでください。**
- **不要な空ぶかしや長時間のアイドリングは行わないでください。**
- **フューエルタンク内のガソリンを使い切ること（ガス欠）のないようにしてください。**
- **エンジンの性能の低下や不調を感じたときは、スズキ販売店で点検を受けてください。**

車両の情報記録装置

■ 情報記録装置について

お車には、車両の制御や操作に関するデータを記録するコンピュータが装備されており、主に次のデータを記録します。

■ データの種類について

- エンジンの回転数など、エンジンの状態
- ギヤポジションなど、変速機の状態
- アクセル、ブレーキ(ABS含む)、ギヤポジションなどの操作状態
- 各種コンピュータシステムの故障に関する情報

アドバイス

- **お車のタイプにより、記録されるデータは異なります。**
- **音声は記録していません。**
- **使用条件などにより、データが記録されない場合があります。**

■ データの開示について

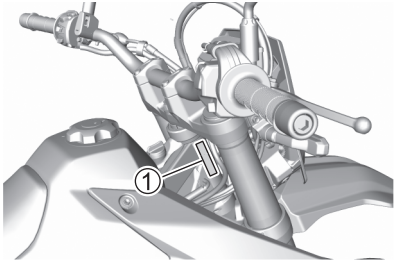
スズキ株式会社およびスズキ株式会社が委託した第三者は、コンピュータに記録されたデータを、お車の故障診断・研究開発・品質の向上などを目的に取得・利用することがあります。
なお、スズキ株式会社およびスズキ株式会社が委託した第三者は、次の場合を除き、取得したデータを第三者へ開示・提供しません。

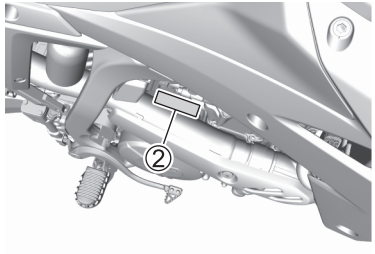
- お車の使用者の同意がある場合
- 法令、裁判所命令その他法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを、研究機関などに提供する場合

識別ナンバー打刻位置

■ 識別ナンバーについて

お車の登録書類を作るときなどの手続きのために、フレームナンバー①とエンジンナンバー ②を控えておきましょう。
また、販売店で部品を注文するときに、これらのナンバーが必要になる場合があります。





■ フレームナンバー

フレームナンバー ①はステアリングヘッドに刻印されています。

今後の参照のためにフレームナンバーをここに記入してください。

フレームナンバー	

■ エンジンナンバー

エンジンナンバー ②はクランクケースに刻印されています。

今後の参照のためにエンジンナンバーをここに記入してください。

エンジンナンバー	

識別ナンバー打刻位置

■ キーナンバー

お車には、キーが2個と英数字のキーナンバーを印したプレートがセットされています。

アドバイス

- **万一破損させたり、紛失したりすると多大な費用が必要となりますので大切に扱ってください。**
- **スペアキーは大切に保管してください。**

環境を保護するために

将来、車両を廃棄する場合や使用済みバッテリ、エンジンオイルなどを廃棄する場合は、地球環境を守るため、むやみに捨てないでください。お車を廃棄する場合はお近くの「廃棄二輪取扱店」にご相談ください。

◆ 廃棄二輪取扱店とは

廃棄二輪取扱店とは（社）全国軽自動車協会連合会の加盟販売店で廃棄二輪取扱店として登録されている、廃棄二輪車を適正処理するための窓口です。
廃棄二輪取扱店には「廃棄二輪取扱店の証」が表示されています。



廃棄二輪取扱店の証

◆ 二輪車リサイクルマークとリサイクル料金

この車には二輪車リサイクルマークが貼り付けられています。二輪車リサイクルマークが貼り付けられている二輪車は、適正な処理を行い再資源化するための、リサイクル費用がメーカー希望小売価格および車両本体価格に含まれています。お車を廃棄する場合には、リサイクル料金はいただきません。ただしお車の運搬、収集費用はお客様のご負担となります。運搬、収集費用につきましては、お近くの「廃棄二輪取扱店」にご相談ください。



◆ 二輪車リサイクルマークの取扱い

お車を廃棄する場合には、二輪車リサイクルマークが必要となります。マークは車体からはがさないでください。紛失、破損による再発行および部品販売の取扱いはありません。

リサイクルマーク対象車両かどうか不明の場合は、次のホームページおよびコールセンターでご確認ください。

◆ 廃棄二輪車に関するお問合せについて

廃棄二輪車に関するお問合せは、お近くの廃棄二輪取扱店または下記までお問合せください。

（財）自動車リサイクル促進センター
ホームページ：https://www.jarc.or.jp/

主要諸元

項　　目		諸　　元
長 さ		2,270 mm (DR-Z4S)
		2,195 mm (DR-Z4SM)
幅		885 mm
高 さ		1,230 mm (DR-Z4S)
		1,190 mm (DR-Z4SM)
軸 距		1,490 mm (DR-Z4S)
		1,465 mm (DR-Z4SM)
車 両 重 量		151 kg (DR-Z4S)
		154 kg (DR-Z4SM)
乗 車 定 員		2人
タイヤサイズ	前	80/100-21M/C 51P (DR-Z4S)
		120/70R17M/C 58H (DR-Z4SM)
	後	120/80-18M/C 62P (DR-Z4S)
		140/70R17M/C 66H (DR-Z4SM)
最 小 回 転 半 径		2.4 m (DR-Z4S)
		2.3 m (DR-Z4SM)
エ ン ジ ン 形 式		4サイクル・単気筒
冷 却 方 式		水冷
燃 料 供 給 方 式		フューエルインジェクション
総 排 気 量		398 cm^3
内 径 × 行 程		90.0×62.6 mm
アイドリング回転速度		1,600 r/min
最 高 出 力		28 kW/8,000 r/min
最 大 ト ル ク		37 N·m/6,500 r/min

項　　目		諸　　元
ク ラ ッ チ 形 式		湿式·多板· コイルスプリング式
トランスミッション		常時噛合式5段リターン
減 速 比	1次	2.960
	2次	2.866 (DR-Z4S)
		2.733 (DR-Z4SM)
変 速 比	1速	2.285
	2速	1.733
	3速	1.375
	4速	1.090
	5速	0.863
ブレーキ形式	前	油圧式シングルディスク
	後	油圧式シングルディスク
フューエルタンク容量		8.7 L
点 火 方 式		フル・トランジスタ式 バッテリ点火

サービスデータ

項　　目	調　　整　　値
ドライブチェーンのゆるみ	30～40 mm (DR-Z4S)
	20～30 mm (DR-Z4SM)

タイヤ空気圧	1人乗車時	前	150 kPa (DR-Z4S)
			200 kPa (DR-Z4SM)
		後	175 kPa (DR-Z4S)
			200 kPa (DR-Z4SM)
	2人乗車時	前	150 kPa (DR-Z4S)
			200 kPa (DR-Z4SM)
		後	225 kPa (DR-Z4S)
			250 kPa (DR-Z4SM)

エンジンオイル量	オイル交換時	1.5 L
	オイルフィルタ交換時	1.6 L
	全　容　量	1.9 L

スパークプラグ	種類	NGK	CR8EIA-9
	ギャップ		0.8～0.9 mm

項　　目		調　　整　　値
バッテリ	種　　類	YT7B-BS メンテナンスフリー
	容　　量	12 V—6 Ah

ランプ	ヘッドランプ H/L		LED
	ポジション (フロントターンシグナル)		LED
	ストップ/テール		LED
	ターンシグナル	前	LED
		後	LED
	ライセンス		LED

ヒューズ	10 A, 15 A, 30 A

メ モ

お車やサービスなどについてのご相談、ご意見がございましたら、お買いあげのスズキ販売店またはメンテナンスノート巻末に記載されている、お近くのスズキ二輪代理店にお申しつけください。

お客様のご相談に対して的確な判断と迅速な処理をするために次の事項を必ずご確認のうえ、ご相談ください。

① 機種、型式、車台番号
② 購入年月日　④ 相談事項
③ 走行距離　⑤ ご住所、お名前、電話番号

お買いあげの販売店

[TEL]

スズキ株式会社の窓口は…
〒 432-8611　浜松市中央区高塚町 300
スズキ株式会社
お客様相談室
◆ フリーダイヤル　0120-402253
受付時間　9:00 ～ 12:00　13:00 ～ 17:00
弊社お客様相談室におけるお客様の個人情報の取扱いにつきましては、スズキ株式会社のホームページに掲載していますのでご覧ください。
(https://www.suzuki.co.jp)

こんなときは、スズキ販売店に持ち込む前に次のことを調べてみてください。

エンジンがかからない
- かけかたは取扱説明書どおりですか
- ガソリンは入っていますか

ブレーキがきかない
- ディスクブレーキはブレーキパッドの磨耗、ドラムブレーキはブレーキレバーの遊びを点検してください

ランプ類が点灯しない
- ヒューズが切れていないかを点検してください